



2024年(令和6年) 1月 第23号

発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

●目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。

●活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する住民の自主的活動を応援する。
③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。

●入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

イトさんと言えば、日立造船の前身大阪鉄工所時代の造船下請け麻生組を興し、因島の子女教育への貢献や宿泊業でも活躍した尾道出身の女実業家です。座談会場には後期高齢者らしき男性が多く私も含め映画「悪名」を視た世代と思われまます。そのイトさんが生名島に庭園三秀園を造りました。私もその草刈りや、EM活性液の散布で池の浄化に度々行つたので愛着がありました。造つ

た当時は海水が池に注がれ、海の生き物が住み、魚も泳いでいたと聞きました。現在は道路が出来、昔のように干満時の海水の出入りが殆ど無いと思えます。できれば海の魚が泳ぐ三秀園にすれば、サイクリストの集いの場になると思います。

イトさんと同時代人、生名島の厳島にある濱田國太郎(日本海員組合を創った人)の立像とセットで観光の目玉にしたら

救急艇、その他小型の船が眼下をせわしく航行している海の銀座通り。車からみる景色とは違う風景が堪能できます。私も含め、船乗りでありながら二代目組合長が隣の生名島の出身とは、弓削島の大勢の船乗りだった方でも知らなかったのではと思います。元の國太郎像が厳島に建てられた当時は、除幕式は村あげての祝賀ムードだったと、郷土史研究家の故村上



▲生名立石山登山口にある麻生イト像を見学する「町歩きツアー」参加者

先人の偉業をしのぶ文化財

『麻生イトと因島・生名島』と題し、去る11月18日、座談会と町歩きツアーがありました。

良いな。イトさんと國太郎さんが、大勢の子供達と三秀園で写した写真も残されています。

國太郎像のある場所は眺めも良く、遙か上島町庁舎、立石港、内海造船に接岸している大きな船、急患を運ぶ命の

貢先生から聞きました。國太郎さんも、海国日本の近代化に貢献した歴史上の人物と言えるでしょう。

上島町には神社仏閣等の文化財、現天皇陛下(当時は清宮殿下)の足跡場所、縄文遺跡等と歴史的文化財も沢山あります。その保護を含め、後世に語り継がれるよう、行政も厳しい財源ではありましようが計画的に保護していくことをお願い致します。(弓削・濱村寿)

公務員の公務員たるどころは？

きちんとした人材が公務員になっていっていると思っていた。しかし最近、その思いがどんどん崩れてゆく。警察官がお年寄りのお金をだまし取るような世の中となり、上島町でも役所の幹部が入札情報を業者に漏らしたり、また今度は、町の仕事を支払っていなかったことが新聞に掲載されていた。これは、もしかしたら氷山の一角かもしれない。

ので、その方は下船時に「切符を取りに来ていませよ」と渡したようですが、前の車は同じように切符を渡していないはずなのにそのまま走り去っていったそうである。

実は私も今までに船員が切符を取りに来ないで下船間際に「忘れてますよ」と、切符を渡した経験が何回もあります。何か正直者かどうか試されてみるみたいでいやな思いです。しかし、問題はそこじゃありません。いつぞや船員に、「こういう事があつたんだけど、乗船した車の数と実際に入金したお金の数と切符の数は、どのように照らし合わせているんですか？」と尋ねたことがあります。すると、

「乗船した車の数は海難事故があつた時のためにカウンタはしていませんが、切符や入金との照らし合わせはしていません、お金と切符の数が全てです、切符の取り忘れがあつてもそれはわかりません」という返答でした。つまり未入金も、もしあつても、なかつたことになるのです。これは公金です。役所の窓口で住民票を発行し料金をもらい忘れたのと同じことです。

先日、知人が生名フェリーに車で土生側から乗船した時の事、その方の車と1台前の車が続けて乗船し、その方は2列目の最後尾につけたそうです。船が生名に到着するまで前の車共々、切符を取りに来なかつた

「私たちの町において、入札漏洩、業者への支払い遅延、フェリーのお金の取り扱いや、その他公務内でのすべてのお金の絡む業務について、意識が低いと思われるのは大きな問題です。大切な税金の使い方も含め、全町挙げて規範意識につき、今一度襟を正していきたいものです。(生名 濱田和保)

村上貢先生 そのご業績を紹介



海軍史研究で日本の近代化を照らした

金谷芳寛(郷土史)
(岡山県瀬戸内市牛窓)

平成十四年(2002)、先生は岡山商科大学を退官され、これまでの業績が評価なされて、名誉教授に選ばれました。これを機に、先生のご研究は海軍史に加えて、郷土の偉人研究にシフトされます。平成十八年(2006)には「女傑一代麻生イトの生涯」を、生誕百三十年記念事業世話人会と、因島商工会議所のバックアップの元に発刊されました。麻生イトについては、今東光の小説「悪名」に登場する因島の「女親分」として知られていましたが、脚色されています。当時の写真や新聞記事、郷土資料などを駆使され、学術的に彼女の生涯が研究されたことに、大きな意味がありました。また、平成二十七年(2015)、NHKの朝ドラ「あさが来た」が放映されました。広岡浅子(大同生命の創業者)の生涯に注目が集まり、女性史ブームで麻生イトの存在も注目されます。先生は、幕末・明治を生きた女性たち(洋泉社ムック)を執筆され、全国にも「女傑 麻生イト」を発信されました。



▲2017年1月25日、濱田國太郎像が復活竣工した時の記念写真

平成二十一年(2009)、生名島の偉人で、海上労働運動に身を投じ、日本海員組合を設立した濱田國太郎の生涯を書いた「海父・濱田國太郎」(海文堂)を出版します。また、これを契機に、平成二十五年(2013)、地元有志が集まり「濱田國太郎顕彰会」が設立。先生は会長に就任され、厳島公園の銅像再建の取り組みが行われました。銅像は、戦時中の金属供出で失われていましたが、平成二十九年(2017)一月に、上島町ゆかりの偉人像として再建されました。

住民の知る権利と 行政の知らせる義務

議会で弓削マリナ整備構
想検討支援業務のことが話題
になりました。今年の3月まで
の業務で、決算ではお金を支払
ったことになっていきますので
その成果物を議会に提出して
ほしいと求めました。すると、
まだできていないから、共有す
ることはできないとの答弁が
あり、できていないものにお金
を支払うのはおかしいですね、
と言え、国と調整しているの
で共有できないと言われまし
た。

憲法では、第21条で表現の
自由を保障し、それとセットで
考えられているのが、知る権利。
知る権利については、様々な

見方もあるようですが、私たち
日本国民が主権者であり、政治
の監視役であることを考えれ
ば、知る権利はもちろんのこと
知らされる権利も当然あると
考えられます。

全国の自治体は、情報公開条
例によって、行政の情報を入手
することが可能ですし、地域に
よってはオンブズマンなどに
よって、行政チェックを民間の
力で行っている団体もありま
す。そんな状況の中、前述の弓
削マリナ整備構想検討資料
が、なぜ議員にすら開示されな
いのか?。何を国と調整してい
るのか?

税金で作った資料を議員・住
民の要求があれば開示して当
然ですし、完成品はホームページ
などに掲載し、住民に広く知
らしめる必要がある。そんな思

パス使用者が増えて座席はほ
ぼ満席である。一区間は徒歩で
15分位だが、一区間でもシル
バーたちは利用する。運転手は
中高年が多く、女性運転手もた
まにいますが、新人応募者がいな
い。電車は昔のような混雑は無
くなんとか座れる。婆さんが
20代頃の昔は、「押し屋」とい
うアルバイトがいて、満員の中
にさらに押し込め、発車ベルが
鳴っても乗り込もうとする客
を今度は引き剥がすという仕
事をしていた。乗客は地獄だっ
た。今、対策を取らなければ、
又新しい地獄が待っている。

(東京・早川和江)

東京の 交通事情



今や日本の人口減少問題は
地方ばかりでなく、東京でも問
題になっている。タクシー運転
手が少なくなり、年齢制限を
80歳にしたらどうかの案が出
て、一般ドライバーに免許返還
を奨励しながら矛盾するという
ことで取り下げられた。今度は
「ライドシェア」の案が出て
検討中である。これは一般ドラ
イバーが自家用車でタクシー
の替わりをすることである。

東京のタクシーの乗客は、ス
マホで呼ぶ人が多く、手をあ
げて拾う人が少なくなった。流
しのタクシーは都心ではなんと
か拾える。路線バスはシルバー

【お便りから】「ワトスン21号」の平山和昭氏のAIの記事、回答が面白かったです。まるで能吏のような回答です。しかし、人を動かすことは出来ません。リンカーン、チャーチルの演説は、人を動かす力があつたと思います。

いから、情報公開条例にのつ
って開示請求を提出しました。
メールでの取得ができるよう
だったので、メールでお願



▲マリナ構想の舞台・旧弓削港

ネット社会 生成AIにだまされまい

ワトスン第21号に「AI活
用新時代」という記事を書いた。
今号は記事投稿が足りなかつ
たのでまた編集人が埋めるこ
ととし、その続きを。

前回の記事はインターネッ
トが発達し、しかも「生成AI」
というコンピュータソフト
ウェアの飛躍的発達で、優秀な
人間が間に答えているかのよ
うな文章もできてしまう状況
を紹介した。ところがその「生
成AI」を使えば、偽の新聞記
事、あるいは、それを写真で撮
ったような画面すらできてし
まう。今でもネット上では作り
物の画像が、お遊びの段階だが
あたかも本物のニュースよう
に投稿されている。そうなる
とネットで情報を採取している
者は、いつたいどれが真実で、
どれが偽なのかを見抜く力が
ないと、簡単に騙されてしま
うというおそれがある。それで
なくともマスコミには嘘が多
いと言われている。

政府高官ですら国会で虚言
を連発する現況からすれば、国
民がコトの真実を知る機会
はほとんど失われるのではない
のかと、これは恐怖ですらある
われわれ昭和・二桁世代の者
は、生まれたとき今のようなネ
ット環境があつたわけではな

ました。すると、資料作成料と
送料として1枚当たり20円
の請求がありました。

情報公開に関する業務は役
場職員の当然の業務範囲であ
り、コンサルが作成したものを
メールに添付して送ることの
どこに余分な費用が掛かると
いうのでしようか?。他の自治
体では、メールでの開示は無料
と聞きます。このなんとも不透
明感漂う対応。
行政の透明性の確保は必須で
す。私たちは主権者であり、町
の未来をどう作るかは、私たち
次第です。(岩城 大西幸江)

い。他者とは生身で接し、長じ
てのネット環境では、ついて行
くのがせいぜいという状況だ
ろう。だが今の青少年は、生
まれたときからネット社会だ。
教育の場も、家庭もネットなし
では成り立たない世になりつ
つある。少子化や都市化、ある
いは過疎化でも、人が人として
育つ間に介在するのが、人間で
はなくコンピュータ技術が
主ということとなると、話は一
挙に変わってくる。他者との関
わりも、生の声ではなくスマホ
など道具を通じてのこととな
りそのため目覚めてから寝る
まで、あるいは眠っている間です
ら、何がしかの影響を受けつ
つあるのかもしれない。
道ゆかば、皆がスマホを握り
しめ、うつむいて歩く姿を目に
するとき、この先、偽情報に踊
らされ、一度しか無い人生を毀
損することにならねば良いの
だがと、思う日々ではある。
(弓削・平山和昭)

月例会から

開催日時・11月25日(土)
14時~16時
場所・自治研事務所(弓削下弓削
515番地・やよみ亭)
以下の件につき意見交換
① 町づくり懇談会の傍聴報告
② 弓削高学寮の見学報告
③ 道の駅、マリナ構想や、上
島町ケーブルテレビ番組審議
会ほか各種審議会のあり方
④ 移住者、高齢者の不便解消に
どう取り組むか
⑤ 議員研修報告および議会デジ
タル化(議員にタブレット配
布)とそれに伴う課題等

ワトスンへの記事募集中です

ワトスン編集係では、皆さんの
投稿を随時募集中です。記事への
ご感想やご意見など。文字数は5
00字前後で、事務所郵便受けへ
紙媒体もしくは電子メール等で。
但し匿名ではお受け出来ません。

最近になること



恵まれて

年末、自慢の味が寄せられて
有り難かった。今年仕込んだ手
作り味噌。自家菜園で丹精した
ウリやダイコンでの奈良漬け
や紅漬け。手のひらサイズに育
てた椎茸。ほかにも摘み取った
ばかりのミカンや柿。そして貴
重な安納イモのホカホカ焼き
芋。それらに囲まれての幸せな
お正月です。ことしも良いこと
続きますように、と欲張り。
(町内某&某)

お知らせ

このたび囲碁・将棋クラ
ブを開設しました。毎週月
曜日の午後1時半から。
場所は弓削下弓削515番地
「NPO法人頼れるふるさと
ネット」さんの交流室(通
称やよみ亭)です。初心者
の方大歓迎。皆様の参加を
お待ちしております。☎090-
9346-3963 (古賀佳子)

あけましておめでとうになります。本年もどうぞよろしく。



2024年(令和6年)
2月 第24号

発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel 090-8247-5279(平山和昭)
Eメール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることが目的とする。
- 活動
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

阪神淡路地震、東日本大震災、そしてこの能登半島地震

これでよいのか?

南海トラフ地震への備え

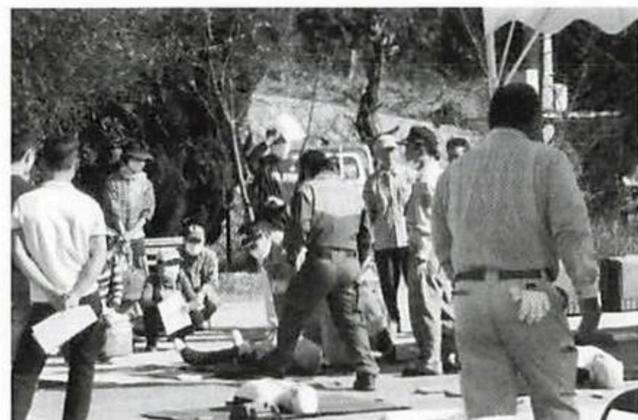
2024年1月1日。一年の幕開けです。

本来ならのんびりと過ごすお正月であったはずが、能登半島地震が発生。大変な事態となつてしまいました。災害は、忘れたころにやってくるといわれます。まさしく想像もしていません。まさしく想像もしていません。まさしく想像もしていません。まさしく想像もしていません。

上島町も南海トラフ地震が起きれば、同じような状況になると考えられます。時間がたつにつれてわかつてくる被害状況も対策を立てておく必要があると痛切に感じます。



▲避難所での即席食物づくりの体験



▲岩城北地区自主防災訓練風景・2023年10月

蓄で大丈夫なのか。岩城北地区集会所で防災訓練をした時に集会所の備蓄品を確認したことがありますが、北地区全員の1週間分食料はありませぬし今回のような帰省の人や観光

の人が加わったときに、避難所の大きさも食料の備蓄も十分とは言えません。

そもそも、避難所の開設は誰がするのか。防災倉庫の鍵は役所にある。能登半島のように道路が壊れて開けられない。倉庫は壊れて開けられない。何らかの鍵の共有をお願いしたりもしていますが実現していません。

つぎに衛生面、水がなければトイレにも困りますし、感染症(インフルエンザやコロナ)などが発生すれば、狭いのですぐに広がる。体育館や学校などは冷たい床。備蓄している段ボールベットだってみんなにあるわけではない。毛布も同様。

こう考えていくと、不足しているものは多く、たとえ生き残ったとしても避難生活に難渋する。しかも、この小さな町で避難所同士や役所がどのよう情報共有するのか。その方法すら町民に共有できていない。平時の防災訓練では、携帯電話を使っていますが、災害時に使えないことは、能登半島地震をみれば明らかです。

自分の命は自分で守るのはもちろんですが、行政は町民の命を守る体制作りにもっと目を向けるべきです。

(岩城 大西幸江)

りでなく時代や政治も描く。皇族貴族集団への鋭い批判には感服した。

緒形拳が生前に「三島由紀夫役が一番きつかった。撮影が終わった時は血尿が出たんですよ」と語っていたので、その映画を観たくて探しまわったが、見つからなかった。最近、新聞のコラムに「話題作にもかかわらず日本で公開されず、日本版のDVDの販売も配信もされていない映画に、ポール・シュレイダー監督の『ミシマ』がある。製作は Coppola と ジョージ・ルーカス、主役は緒形拳」と載っていた。

なぜ?。正確な理由はわからない。こんなの嫌だ!
(東京 早川和江)

新書・文庫本礼賛
良書紹介
読んでみませんか



本が売れなくなったためか、単行本並みの充実した内容でも「新書」として発行される。単行本で出した本でもすぐに文庫化される。それで最近新書、文庫本ばかりを読むようになった。その中で良書2冊を紹介したい。

『日本共産党 革命を夢みた100年』中北浩爾著・中公新書 1922(大正11)年結成から100年の歴史を追いながら、同党の全貌を描く。「アカ」と呼ばれ恐れられた1960年頃までが興味深かった。

『方丈記私記』堀田善衛著・ちくま文庫復刻版

単行本初版は1971年、鴨長明の『方丈記』を読み解く。知的な文体で、本の内容が

海軍史研究で日本の近代化を照らした
村上貢先生
そのご業績を紹介



金谷芳寛(郷土史)
(岡山県瀬戸内市牛窓)

平成二十七年(2015)、先生のご研究の集大成で、郷土の人物伝集ともいえるべき『しまなみ人物伝』を、刊行なされました。先生が生涯をかけて研究されてこられた漂流民の瀬戸田の仙太郎、明治時代不平等条約下、アメリカ相手に海難事故賠償交渉した苦勞人永井重助、因島の女傑麻生イト、日本海員組合を創設した濱田國太郎などに加えて、江戸時代に日本を測量した伊能忠敬にはじまり、初代弓削商船学校校長となつた小林善四郎、夏目漱石「坊ちゃん」の「うらなり君」モデルの中堀貞五郎など、近代夜明けの時代から昭和の時代まで、郷土ゆかりの人物が取り上げられ、しまなみ地域の歴史風土の豊かさを、身近に感じさせてくれる本です。巻末には、奥様の「みちよさんご労作の「登場人物年表」も添えてあり、歴史の知識が少ない人でも、郷土の偉人たちが、歴史の渦中の中で、生き生きと活躍してきた足跡が一目でわかります。



▲一般向けの郷土史関係人物を取りあげた村上先生の著書

ここまで、先生のご業績を、論文、学術書、一般書の中から、主な著書で振り返ってききました。論文などをもっと取り上げますと、紹介しきれないほどたくさんのご労作があります。海の歴史を研究する歴史学者は、全国的にも数が少なく、戦後の「海軍史」のパイオニアとなつた村上貢先生。先生が興味を持って、海の民の歴史を掘り起こし、紡いでこられたご業績は、しまなみ地域の宝でもあり、今後ますます色あせることはありませぬし、郷土の歴史を紐解く愛読書となっていくことでしょう。

(終)

魚島航路新造船 50トン級大型船投入に疑問

魚島地区の人口は平成16年合併時の291人が、本年の町公報1月号では126人にまで減少している。だが交通手段の船舶は不可欠だ。

魚島航路は、魚島-高井神島-豊島-弓削島-因島間を1日に4往復する航路で、船名は「ニューおしま2」。

同船は平成16年建造。総トン数52トン。乗客定員82名。利用客の多くが魚島・高井神島・弓削島の住民で、通勤、通院、買物等の移動手段として利用するほか、生活物資等の輸送も



▲魚島に向かう「ニューおしま2」

行っている。つまり上島3架橋と同様の重要な公共交通網を担う生活航路である。しかし同船は、大型船のため法定の定期・中間ドック検査が義務付られ、年間2540万円程(平均値)の検査修繕を毎年実施。燃料費は年間3630万円程(平均値)。これを19トン化(乗客定員50名、80名すれば六分の一の年間440万円程の小型船舶検査費用だけで済む。燃費は一概に比較できないが、町有の19トン型救急艇2隻でも年間395万円程の費用で稼働している。19トン化する事で定期ドック等の検査が不要となり船舶の維持管理費を大幅に削減することができるとは大きなメリットである。

年頭雑感 この国はどうなってゆくのかな?

辰 辰が年明け早々に暴れまわった。コロナ禍も落ち着き、久しぶりの帰省だったかもしれない元日の楽しいほろ酔いが、まさかの能登大地震。家族の命が突然亡くなり呆然とたたずむ男性。惨いとしか言えないのが、現実には、神も仏もないのか!、です。

羽 田では飛行機の接触事故。燃える機体を見ながら、乗客の皆さんは地獄を思い浮かべたでしょうか。以前知床の時化の海で、同じように客室に閉じ込められた観光船カズワンの乗客も、地獄さながらだったことでしょう。生存者ゼロ。羽田の事故も地獄でしたが乗客乗員全員無事退避出来た。テレビでは(奇跡の脱出18分)とか報じられました。乗務員OBの女性が、「奇跡ではありません。訓練の賜物です」と。この言葉の重みに、年一度ですが災害時の避難訓練の大切さを感じるどころです。

新 年早々辰が怒るのも無理ありません。日本を導く政治家が、キックバックなる商法?、でお金を稼ぐみみちい考え。報道では金額の多少でお沙汰が違うのでは?、とかですが、万が一そうなら、国民の一人として納得できませんぞな。近ごろ余りにも多い政治家の不祥事、スキヤンダル、チョンボの一言。情けなくて涙もでません。揚げ句の果てはトカゲの尻尾切りで事を済ます日本丸の船長さん。「一丸となつて」は聞きあきました。進退をかけ、本気で改革に取り組むことを切に願います。



最近きになること
最近【鳴門ワカメ産地擬装】が、テレビ報道されまじた。かつてアサリの産地擬装もありました。これがウナギなら金額が一桁違うから身入り多い。これキックバックと、どこがどう違うの?。私では説明できません。寂しい限りですね。

全国的にもこのコスト圧縮のメリットから様々なタイプの船舶が建造され、燧灘の航行に対応した「対波性」に優れた19トン型も多く存在している。今治市が運航する関前航路(今治港-関前諸島)には19トン旅客船「とびしま」が就航しており、燧灘同様に来島海峡の風速、潮流、高波等に対応し

時刻表を改め、誰もが利用しやすいバスの運行を



▲望まれる生名立石港への利便向上

芸予汽船の運行が現行の七便から四便になることが決定した。船員不足が理由とのこと。たしか先の九月議会でも町長は、「私は車で移動するので困らない」が、住民のために減便には断固反対する、と大見えを切っていたはず。だが、あっさり芸予汽船の要求が

て安全に運航している。ましてやニューおしま2が定期ドック等の検査時には代船として19トンの岩城汽船「しんこう3」、定員59名、昭和62年建造、船齢37歳が問題なく運航されている。この実態をみれば、いままさら魚島航路に50トン級の新造船建造が妥当なのか? (弓削 濱田高嘉)

通ってしまったようです。二年前に七便に減便したばかりなのに、このままでは近い将来、航路廃止という事態も起こりうる。対策はあるのでしょうか。とりあえず立石港からのフェリーを利用するしかないが、(ハブ(中樞))港であるにも関わらず立石港へのバスが不便すぎる。立石港を起点としたバスの時刻表には見やすいパターンダイヤを導入し、土、日、曜日もちんと走らせる、もつと使い勝手の良いバスが必要

演 歌の女王八代亜紀さん逝く、と聞きました。彼女、笑顔で天国に旅立っているだろうとは思いますが、さぞかしや無念だったことでしょう。合掌。
ト リは目黒の田中御殿が焼失しましたね。娘の真紀子さんの線香の不始末とかでした。皆さん、詐欺に用心(弓削 濱村寿)

バスは、車で移動できない老人だけが利用するものではない。免許を返納したと思っている人、のんびり島めぐりしたい観光客、日曜日には福山まで映画を見に行きたい高校生、そして親に送ってもらわずに主体的に行動したいと思っっている小、中学生。潜在的バスの利用者は大勢います。バスの利便性が向上し、利用者が増えれば、動きが生まれ、交流が生まれ、町は活気づきます。
ところが残念ながら行政の眼は町内の交通機関の整備よりも、外に向いているようです。道の駅に続いて、今度はマリナー構想だ。大型ヨット、クルーザーの係留地を弓削港に建設しようというもの。
ほんの一握りの富裕層のためのマリナーと、住民の福祉につながる公共交通機関の整備とどちらに力を入れるべきか。どちらが町の将来につながる事業になるかは火を見るより明らかでしょう。(弓削 古賀佳子)

月例会から
開催日時: 12月23日(土) 14時~16時
場所: 岩城庁舎2F 文化財講座聴講(旧三浦邸関連)
ワトスンへの記事募集中
ワトスン編集係では、皆さんの投稿を随時募集中です。掲載記事へのご感想やご意見なども。文字数は500字前後。郵送・電子メール等で。但し匿名ではお受け出来ません。

おしらせ
NPO 法人・頼れるふるさとネット(下弓削515番地)通称「やよみ亭」の交流室に「町なか図書室」を開設しています。児童書ならびに一般書を置いてますので、どうぞご自由に閲覧ください。原則年中無休です。但し午前9時頃~午後5時頃までの開館。お問い合わせは 090-8247-5279 平山まで。



2024年(令和6年) 3月 第25号

発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探知し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

司会 (世話人代表) 自治研月例会にご参集いただきありがとうございます。この自治研究会は当分休眠中でしたが、再開して2年経過しました。再開するにあたり、「地域のこれからを考える」をメインテーマに、有志が語り合い、その結果を会報で地域の皆さんにお伝えし、いわゆる住民自治について考えてゆこうというのが趣旨でした。

記事に対する一読者の反応

司会 本題に入る前に実は先だって、このワトスン第23号が、弓削のAコープ駐車場の脇のNPOの掲示板にピンドメされ、ひらひらしていました。見るとこの「公務員の公務員たる場所は？」の記事が赤枠で囲まれ、欄外に弓削一佐島一生名一因島一、車両ナンバー一、スマホ一、と太ペンで書かれています。判じ物みたいですが、どういう意味でしょうね？

A スマホで写真を取り、車両ナンバーなどの証拠を示して記事にせよ、という意味ですかね？

司会 そうともとれるし、スマホで写真を撮って港務所に伝え、船員に注意させればいいだろ、という意味かも。

B 記事に賛成なのか批判なのかはこれではわかりませんが、批判的な受け止め方もあるのは承知のうえです。

この記事を書いたのは、こうしたフェリー料金回収の問題は、旧村時代からいろいろあって、合併してのちも、それが完全に改善できないのはなぜなのだろう、というところからです。あの短い運行時間のなかでの料金回収ですので、むしろ人の問題ではなくシステムの問題ではないかと思うんですよ。

例えばETCのようにデジタル化して、人がミスしても文明の利器がカバーするような対応策を考えるべきではないかということ。

ところがこういうことが起きている現実を知らない人も多い。あるいは、知っていても誰も問題にしないということが、実は一番の問題じゃないかと思うんですよ。

C 状況は現場の人がいちばんよくわかっているわけだから、現場の人を交え、専門家の意見を聞きながら解決を図ろうという場が大事ってわけですね。

B そのとおりです。当事者を交えた対策を議論する場が絶対必要だと思います。

ワトスン発行2年、活動の検証、反省、展望などの対談です

毎月一回発行の上島町自治研究会・会報は、この2月で24号。対談の全てというわけには、紙面の容量で出来ませんので、エッセンス的になりませんが、住民自治に関するどんな活動であれ、大事なことは、常日頃の問題意識と、それをどう公開してゆか、共有してゆくか、ではないかと思えます。読者の皆様のご感想なりをお寄せくださるのをお待ちしております。

地域のこれからを考える

日本国の縮図のようなわが町上島町、活かすも殺すも住民次第。いまこそ試されている住民の「住民自治意識」

司会 近々因島長崎港の棧橋が広島県側の工事で新調され大型バス等がフェリーに乗りにくかったのが改善される。望むことは粘り強く交渉を続けることが大事ということですか。



毎年問題になる防災訓練について

司会 今日欠席のメンバーからこういう問題提起がされています。読み上げます。「防災の件。自然災害はいつどこで起きるかわかりません。能登の地震いま一ヶ月、復旧ままならず。瀬戸内海は何もないので危機感まったくありません。毎年の防災訓練は役所の訓練のように見えます。町民一般に防災教育、訓練が必要とおもわれますがいかがですか。このことについてはどうですか？」

A 防災訓練をするにあたり、今準備しているもの、例えば備蓄品とかの実情を住民に知らせてなすすぎるので住民に危機感が生まれにくいのではないですか。

今回の能登地震なんかをみていても、正直現状では足りないうこと、はつきりしている。それなのにこれからどうするか、という話もない。そもそも連絡網すらどうなっているのかわからない。

実際に災害が起きたときには消防団、消防士、役場職員は別の役割があるので、地区の防災訓練には組入れないでくれと役場は言うのです。

B そうなると残るのは年寄とおんなことだけ。その中で地域をどう守っていくかを考えなければならぬ。

A 関連で県からの愛媛防災インストラクター養成講座視聴や、今治地区自主防連携ワークショップへの誘いとか来ています。そこで岩城北地区防災会から、そういう情報を防災士さんに伝えてくださいと消防に頼んだら、協力してくれることになりました。

このように、地域からあしたい、こうしたいと相談にいけば、消防も役場も協力はしてくれているので、何かはしなければいけないの思いは担当者にはあるようです。

地区割り再編と呼び方の統一

B 災害対策の根っこには、町内全ての地区割の再編成と組織の呼び名とその内容の統一も必要だと思います。

司会 この問題は合併以来しばしば問題提起してきたけど行政は自治会のことだからと動きたがらない。自治会と行政が同じテーブルで忌憚のない意見を話し合うことで住民自治の機運が高まると思うんですけどね。

B 長い間慣れ親しんだ地区割や名称には愛着があるだろうが、これだけ少子化が進み、人口が減れば、行政運営の効率化情報の伝達、防災対応の面からもさっさと進めるべきです。

(B面につづく)

佐島しまの広場の
無人販売の課題

司会 佐島の無人販売所「しまの広場」について、相変わらず代金不足。この施設の責任者、担当者はいないのか?と問われてはいるのですが、これについてはどうですか。

A これはそこをつかって活動している人たちにとっては大きな問題だと思います。

その品物は基本一個100円かそこらだけど、それでお金儲けというより、売る楽しみ、買いに行く楽しみを共有している動きだと思ってるので、品物を持って行って1円置いておくという行為は、やはり出品している人にとっては馬鹿にされていると思われませんか?

B 無人販売というのはお互い信頼関係のうえに成り立っている。それが崩れるなら監視カメラとか、店番をおくとか考えねばならないが、それだと、もう利用者との間には疑心暗鬼しか生まれない。

司会 たとえ監視カメラを置いたとしても、毎日だれが犯人かなど映像を分析する行動が楽しいはずがない。いつそ出すのを止めようという動きになりかねない。



D そこに出品するひとたちは人の役に立てばいい、黙って持っていくってもしかたない、と思うような人でないと、出さなくなるんじゃないかな。

A すでにそうなっているんですよ。出すのをやめたと言う人多いです。やはり作物ひとつ作るにも元手はかかっている。多少なりと肥料代の足しにでも、と思っ出て、それをタダや1円ですまされるとやりきれないのでは?

あそこは別のコーナーに自由を持って行ってよい無料の雑貨も置いてあるので、ふと有料の物でも「お気持ちだけ」で、という感覚になるのかもしれないね。

司会 元々が島おこし協力隊がはじめた事業で、施設は町有なので責任者は町ということにはなるが、担当部署はそこまでの管理は頭ないだろうな。せめてそのあたりは使っている人らでやってくださいという感じなのでは?

A なんらかのルールを作らざるを得ないのかもしれないね。

C 島でそんなことがあつちやいけんじやろ、という声も聞いた。たしかにね。では、こういうことが起きていくというところを、せめてみんなに知ってもらうのも大事な事かと思う。

入るを固るも、
出るを制せば

司会 では次の件についてちょっと説明してください。

B 年々少なくなる町の財源の中で持続可能な町のシステムを議論する必要があるのではないか。たとえば町のエレベーター保守に毎年1千数百万円ほどかかっているといっています。

一基平均数十万円。点検現場見たことあります。あれでそんなにするもんでしょかね。

A そういう保守点検業務も、つまり競争入札を活用して出費を節約せねば、ですね。

民間点検で、もつと安いところがあるのではないか。上島町ではどうも高い方、高い方へもって行っている感。(笑)

司会 「入るを固りて出るを制す」は町長の十八番だが、このあたりほんとのところはどうかかねえ。ゴミ処理費なんかも問題になったし。(笑)

B 民間委託してる生名立石港務所の従業員なんかも、再教育してほしいですね。船待ちの車の誘導に、笑顔もなく怒ったように手招きしたり服装がだらしない手招きしたり、他所から来た人たいていして恥ずかしい。

C 民間とはいえ仕事はいわば公務をしているわけだから、発注者は業者に注意喚起や改善指導はできるはず。それを関係者がみてなにも感じないのであれば、町全体がそうなんだ、ということにもなるねえ。

B 尾道、広島方面行きのバスの始発、到着を長崎橋にしてほしいとバス会社に働きかけたがだめでした。今は長崎港にはバスの待機できる予備レーンもあるんで、行政が住民の声を集め、表にたつて交渉してほしいものです。

A 公共交通は福祉だという意識が弱い気がします。

司会 今治航路の廃止と町営で新たに航路開始するというこ



公共交通として町内4島の移動はバス中心に。だがまだ改善が望まれる。

とについてはどうですか。

B いま今治航路は三セクで運営されていて、運業者が航路廃止をちらつかせて揺さぶっている。それならいつそ廃止に賛成し、三セクから抜け、町営の新航路を開始するほうが、町が負担している分担金が生きてるのではないかな。

司会 現に「つばめ」という船も一隻貸与してるわけだし、今治と因島航路廃止したら、その「つばめ」と「うおしま」2隻態勢で、船便がなくなつた岩城の長江、因島、生名、弓削、魚島方面、佐島、岩城、伯方、今治方面をカバーする新航路代替案を早く作っておくべし、ですね。廃止になつてから考えるのでは遅い。

町民による議会や
行政のチェックを

司会 ほかに何か...

A 1月29日に臨時議会があります。補正予算案件で、一つは政府の行う低所得者支援事業関係。もうひとつは町の生活支援商品券発行事業関係のものですね。

実は、商品券を受け取った側が役場でそれを換金しようとしても、ひと月遅れで月1回とか2回しか換金できないので、様々な理由で商品券を使える店に登録しないというところもあるようです。それを改善するよう質問したいと思つてい

るので傍聴にきてください。**司会** 傍聴者がいると会議には緊張感がでます。

A あと本会議のあと議員協議会もあります。これは議員報酬改正を報酬審議会にかけてほしいと議会から町長に要望書出したのですが、受け取る前に議員と話がしたいとの申し入れが町長からあつたというところ、なんか変な話になつていくのですが、その関係です。

司会 要望書を受け取らないというところ?

A 受け取る前に、と言つてるらしいです。

司会 それは受け取り拒否と同じことや。いつかも議会推薦の監査委員推薦を、たぶん共産党議員だったからだろうと思

うが、受理せず、片肺監査を続けた。首長による権力の濫用。**B** 議会からの要望書なんだから、町長は報酬審議会に諮問し、審議会が議会と話がしたいというのなら筋は通るが、議会の出した要望書を受け取る前に云々言うのは議事を馬鹿にしていることだな。

司会 議員というか。議会はそんな話を受け入れちゃだめだろう。

A そう思います。

D ことしは選挙の年。国会議員の裏金問題なんかみていると、国会議員にしる、この町の町長、議員にしる、有権者は真剣に当事者意識を持つて人を選んでゆかないと、とんでもないことになる気がするなあ。

C ことしは新人がたくさん議員選挙に出る噂があるね。

D 町のトップも議員もほとんど入れ替わり、ちゃんと時代に即した町に生まれ変わってほしいものだ。**司会** いろいろありました。今回はこれくらいにし、引き続き「地域のこれから」を考えたいと思います。お疲れ様でした。(参加者総勢7名)

お願い

村上貢氏記念碑建立を計画中です

令和5年3月永眠された生名島の村上貢氏は、平成26年結成の「濱田國太郎を顕彰する会」の代表でした。皆様方のお力添えをもって平成29年1月、生名島にある生名島出身の旧日本海員組合創設功労者であり2代目組合長の濱田國太郎像(戦中金屬類供出令で喪われていた)の復活を果たせました。これは貢氏のしまなみエリア歴史研究の成果のひとつ、「海父・濱田國太郎」という著書のおかげもありました。

村上貢氏が弓削商船高専在任中、学生と共に始められた海事史研究は、「戦後日本の海事史研究の開拓者」と位置づけられており、「顕彰する会」では、氏の瀬戸内を始めとする「海の民」の歴史研究の功績を記念する碑の建立を計画中です。この事業に読者の皆様のお力添えをいただけたら幸甚です。なお詳細につきましては、計画確定次第お知らせいたします。

(濱田國太郎を顕彰する会)



2024年(令和6年)
4月 第26号
発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

- 自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋
- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探求し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

議員報酬について来期からアップできるよう、その問題を「上島町特別職報酬等審議会」にかけてほしいとの要望書を議会として町長に提出しようとなりました。ところが議長は提出できずに帰って来ました。理由は、「話してみただけど今渡しても無理そうだった」からとのこと。

遅々として進まぬ議会改革

令和6年度の予算編成方針は10%のカット。「財源なくして政策なし」とか「行政効果の希薄なもの廃止」とするなど、厳しい条件が付けられている中で議員報酬アップは、行政にとつてうれしい話ではないでしょう。しかしこれは足掛け2年以上かけて議会内で話し合い、議員のなり手不足解消や、議員を本業としてやれる報酬はいくら要るかを考えて出した結論。その要望書を渡せなかったというのは、議長としての役割をはたせていないと言わなければならない。しかも町長の回答は、「受け取らないとは言っていない。要望書を受け取る前に議員と話がしたい。」という。本来なら議員発議で報酬アップ条例を可決できる案件ですが、それでは町民の皆さんの納得が得られにくいかもしれ

ない。ゆえに報酬審議会で審議してもらい、その結論に従う、というのが要望書提出の経緯でした。窓口である町長が受け取ってから話し合いを、というのならわからないでもないですが、受け取る前に話をさせろというのはいただけなのや、受け取りが2度ほどあつて何となく受け取っていた、後日話



▲地方議会議員のバイブル議員必携

議会傍聴感想記

議会の本会議や委員会には可能な限り傍聴にいこうようにしている。ウィークデイにそれら傍聴に行けない人は後日それをCATVで視聴できるのをおよその出来事や雰囲気は知ることができ、直に見ると録画をテレビでみるのと大いに違うのが、質疑する議員と、しない議員の様子が見えること。その方々が、なんのために、なにをしたくて議員に立候補したのかを考える切っ掛けがつかめることだろう。当然次の選挙での投票行動の変化につながる。いやつなげなくては意味がない。

飾り物でない議会&議員へ脱皮を！

町長も議員も町民の代表というスタンスで行政を行って

「長には執行権、議会には議決権を付与し、相互にその権限を均衡させ、それぞれの独断専行を抑制して、適性で効率的な行政運営の確保を目指す。例えば予算についてみれば、その編成権と提案権、執行権は長に専属しているが、議会の議決がなければ執行できない建前がとられ、一方議会は、その議決にあたって、状況によっては、修正も否決もできることになっている。(出典:議員必携)」わけだから、問題ある予算については議会内で十分論議し、問題部分を「修正して議決する」というのが本来の在り方だろう。それが議員のお役目であるはず。

当選した後議会から配布される「議員必携」は、全国町村議会議長会が編集・発行したもので、参考書としてしっかり活用すれば、昨日まで政治に無関係だった人でも議員活動は可能となるスグレモノである。

現役議員がその中身に目を通してないとは思えないが、議場や他の会議を傍聴するにつけて、「お役目がわかってない」と見えてしまうのはなぜか？

(弓削 平山和昭)

紫式部は見ていた



婆さんの想像する式部は、実母が早く亡くなり、少女の式部を慰めようと、漢学者の父は文字を教えた。式部は覚えが早く、自分で読んだり書いたりするようになり、やがて父の書籍も読みあさるような賢い娘になった。(中略)文才を道長に認められ中宮・彰子に仕えるようになる。女房生活になじめず、寡黙な式部は女房たちのおしゃべりや女君や男君の振る舞いを見ていた。そして個室にこもり、貴重な紙に向かい筆を持つと、物語の人物が立ち上がり動く。それを式部は必死に書き綴り「源氏54帖」を書きあげた。(東京 早川和江)

今年の大河ドラマは紫式部と知って、資料の少ないこの人をどう描くか楽しみにしていた。第1話、少女の式部(まひろ)と少年の道長は知り合う。最後に式部の目の前で、実母が道長の兄・道兼に刺殺される。第2話では式部は代書屋の手伝いをして小遣いを稼ぐ。これは史実に関係なく作者は平安時代を舞台に男女の愛の物語を描こうとしているのか、それならばそれで面白ければよいと思っていたが、第7話まで観て面白くない。ただ「蹴鞠」の場面や装束などが珍しく美しい。時代考証は確かなようだ。それを楽しみに、観ていこうか。

傍聴席から

公金投入の海苔加工施設の新設事業 離島の漁業産業の曲がり角?

令和6年度の予算・決算でもあり、議員にとつては特に真剣勝負の定例議会でもあると思います。傍聴席から見る理事者側、町職員の顔触れを見ながら、4年経つと随分代わつた感じが実感です。もちろん議員側も代わりました。

3月議会は次年度の事業計画、予算の説明等を踏まえた理事者と議員の予算に対する戦場かと思いますが、身近な案件なのに一言の質疑も無い議員に改めて失望です。特に弓削島の下弓削日比地区に計画している海苔加工施設。この計画は議員懇談会でしかたか2年前に聞きはしましたが、その後の経過は知り得ませんでした。

毎年師走になると海苔の加工場の機械が稼働し、冬の名物詩でもありました。温暖化による水温の上昇、瀬戸内海の海水栄養不足等と何が原因かは分かりませんが、海苔養殖の操業期間が短縮したのは事実で、テレビで今季宮城県海苔養殖をしている方が、例年に比べ一番海苔が半月も遅いと嘆く報道を視ました。弓削島でも今冬は恐らく例年よりも開始が遅

かったと思います。そんな業者を身近に見聞きしている町民は、なんで今さら?の思いでしょう。弓削島では50年余り前から海苔の養殖事業が盛んでした。島の土産として海苔は軽いのでお重宝されていきます。最盛期には10軒以上の業者が昼夜を問わず機械の作動音でした。

海苔加工には多くの水を使うので島が水不足の時代には井戸水、打ち抜き等で水の確保が大変でした。井戸水が涸れた



▶3月17日(日)、「友愛の水」水源池・東広島福富町で第20回植林交流会に参加しました。

り塩分が交じる井戸もあり、当時は水で泣かされたりでもありました。今はひねるとジャリです。東広島福富町から上島町に水が届くようになってからは、業者も水に対する心配がなくなつたことでしょう。

現在4軒が弓削特産の海苔として頑張つて操業しています。議会での説明では短期間操業をスーパードライ乾燥機で生産性の向上を考えている、でしたが、稼働期間が短いなら他の活用もできないものかと思ふところ。いずれにしても町民の皆さんへは7億4000万円の予算を、丁寧に分かりやすく説明をお願いします。

時代と共に社会も代われれば海も代わります。貝掘り30分で味噌汁の具材ができた時代が懐かしいなを思い、「ほつとけない精神」で海の浄化運動を、EM菌活性液で試みた時期もありました。それが緑で福富町への感謝の植樹にも繋がりが今日があります。

見慣れた海景色、湖畔の山景色も、年に一度位はいいかがでしょう。断水の心配もなく、安心の福富の旨い感謝の水。大切「水の一滴は血の一滴」。大切にしましょう。(ゆげ夢ランドの会 浜村寿)

村上 貢氏記念碑建立に係る応援のお願い

「歴父・村上 貢先生記念碑」建立趣意書

村上貢先生は、大正15年(1926年)愛媛県越智郡生名村に生を受け、青雲の志をもち京都大学史学科に学び、昭和25年(1950年)同大卒業後、岐阜県立多治見高等学校の教諭を経て弓削商船高等専門学校教授(のち名誉教授)、岡山商科大学教授(のち名誉教授)を歴任し、令和5年(2023年)3月、郷里生名島にて98歳の生涯を閉じられました。弓削商船高専時代、学生と共に始めた海事史研究は「戦後日本の海事史研究の開拓者」として位置づけられ、その研究活動は瀬戸内海しまなみ地域の歴史の父とも言える活動でした。日本の近代化の途次には様々なジャンルで瀬戸内海を故郷とする偉人、傑人が輩出、活躍しましたが、そのよって立つところの「海の民」の歴史研究こそ、先生の最も大切にされてきたもののひとつでした。地味なるがゆえ広く世に知られているとは限らないわが郷土の偉人・傑人の事績を、数多くの書籍でもって平明に伝えてこられた業績は、先生もまた讃えられてしかるべき人物であったと考えます。

大正10年(1921年)旧日本海員組合創設に尽力し、当時の下級船員の待遇改善に邁進した、郷里生名島出身の濱田國太郎の功績を地域の人々に再認識して頂く活動をしてきた当会は、当会の代表だった先生の没後一周年を期に記念碑を造立し、郷土の人々、とくに未来を担う子ども達が、郷土を愛し、誇れる心の源にしたいと念ずると共に、町を訪れる観光客にも広く伝えたいと考え、この活動を立ち上げました。どうか本趣旨にご賛同いただき、あついで協力を賜りますよう、よろしくお願ひいたします。

記念碑姿図



濱田國太郎を顕彰する会
協賛：NPO法人 頼れるふるさとネット

- 1: 建立場所 生名地区巖島濱田國太郎像周辺
 - 2: 時期 令和6年5月末日までに建立予定
 - 3: 総事業費 70万円弱。
 - 4: 将来展望 エリアごと町に寄贈を希望
 - 5: 発起人 濱田哲久 村上啓祥 村上幸子 村上みちよ(以上生名地区)、濱村壽 濱田高嘉 国延隆彦 平山和昭(以上弓削地区)、大西幸江(岩城地区)
 - 6: 募金要領: 一口千円、何口でも。発起人にご連絡いただくか、会の金融口座にお振込みいただく。(受領書発行のためご住所、ご芳名がわかるようご連絡をお願いします)
 - 7: 金融機関 ゆうちよ銀行 濱田國太郎を顕彰する会 会計担当者平山和昭(弓削下弓削515番地) ・記号16170 ・番号11668101 ・なまえ ハマダクニタロウヲケンショウスルカイ
- 他の金融機関からのお振込には次の内容をご指定ください。【店名】六一八(読みロクイチハチ)【店番】618【預金種目】普通預金【番号】1166810

ワトスンへの記事募集中

ワトスン編集係では、皆さんの投稿を随時募集中です。掲載記事への感想やご意見なども。文字数は500字前後。郵送・電子メール等で。但し匿名ではお受け出来ません。

開催日時: 2月24日(土) 14時~16時
場所: 自治研事務所(やよみ亭) ・持ちよりテーマと意見交換 ・「濱田國太郎を顕彰する会」との協議。ほか

最近きになること



私のブギウギ
戦後親が買い出しに行っていた家では、いつも麦多めのごはんだった。その頃子どもらが歌ったのは「東京ムギムギ、いなか白米、歌のリズムはムギムギ」だった。今じゃ、カラダのために麦たべるべし、の時代です。(笑) 一町内ムギムギ体験者一

世界に遅れをとる日本(1)

夏坂周司(岩城)

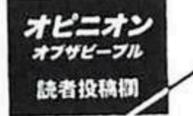
いつも「ワトスン」ご配布ありがとうございます。

ところで最近、沖縄の辺野古基地の建設強行について、落ち着いた気持ちでおります。

2月末に基地周辺の住人30人が代執行停止を求めて訴訟を起こしたと報じられていました。美ら海を守れと抗う沖縄県民の願いは、人間の尊厳からして道理ある要求です。小さい頃に、いじめられる朝鮮人の同級生をかばったことを思い出しました。余りに理不尽な、弱い者いじめのやり方は、戦前を彷彿とさせ、胸かきむしられる思いがします。沖縄の人たちに連帯し、人間の尊厳を守るため、「精神の自由を求める裁判」を

起こせないものかと思っております。

辺野古の工事停止の訴訟が「精神の自由のための裁判」として成り立つかどうか、改めて日本国憲法を眺めてみました。「平和的生存権」や「幸福追求権」が争点に近いかもしれない



と思いましたが、カント哲学の結晶のような日本国憲法には改めて感動しました。

小生は、最近の実益本位の世の中に危機感を感じております。実利の行き着く処は「強欲」で、力による支配です。そんな

とき、「人間と自由」が社会再構築の主題になると小生は思っています。

「人間として自由が抑圧されていないか」と立ち返る基軸がそこにあり、それを実現するために「討論」が必要です。

「人間・自由・討論」という概念は、もともと日本にはなかったものです。この概念は「個人主義」によって支えられ、それが「民主主義」に発展したと考えられます。日本はその基礎的基盤が脆弱です。

いまや日本は経済はもとより、社会制度まで世界に遅れを取り、恥ずかしい位置にいます。もはや後進国と言っていいでしょう。日本が世界に互して歩むためには、民主主義の再考と新たな思考の構築が不可欠だと思います。

弓削高校学生寮を見学しました。建設費は六億円。それなりに立派な外観だが、中に入るとさらにびつくり。見学者からは「一斉に「こんな老人ホームがあつたら入りたい!」という声が上がった。」

の先どこから捻出するの?とつい考えてしまう。弓削高校は存続させるに越したことはない。いったんは島を出るにしても、卒業生には将来島に帰り、ぜひ島の未来を担ってもらいたいと思う。コロナ禍以降、地方の過疎地へ移住する若者が増えている。リモートワークを活用して転職せず移住する。自治体の支援策を利用し起業する。耕作放棄地を利用し農業に挑戦するなど。二十代、三十代の若者の価値観も変わり、豊かさのとりえ方も変わった。

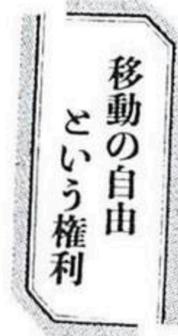
上島町をずっと住み続けたい町に



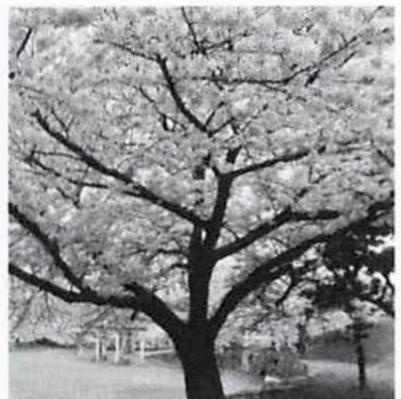
2024年(令和6年) 5月 第27号
発行:上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

- 自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋
- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

フランスでは、市民に保証される自由のひとつに「移動の自由」があり、大切な権利として尊重されているんだとか。行政はそれを守るために様々な手段を提供し、市民は携帯電話のアプリ上で乗り合わせる車を見つけて通動するなど、地方でも移動の自由が進んでいます。日本の交通僻地でも、遠隔地のタクシース会社がリモートによる安全管理を行うことで、一般ドライバーが一定区間住民を運ぶサービスが始まっています。ここ上島町にも、ここに特化した移動手段が近い将来お目見えするようになってはなりません。近隣独居の高齢の方々、心細さは目にあまり、学生さんたちも然り。港で2時間連絡待ちの時刻表は、ストレスを増し、不健康です。これでは移住定住先候補からも漏れるでしょう。



泉房穂さんがかつて市長を務めた明石市では、教育、福祉に重点を置いた思い切った行政改革により年々人口が増加したそうだ。一方、上島町政は相変わらず、道の駅やマリナー構想といった、旧態依然とした対外的施策を推し進めようとしている。しかし今、目を向けるべきは外ではなくて内ではない。六千人余りの自治体ならば、司書のいる充実した図書館が当然あるべきだし、住民の文化活動の拠点になる公民館も(映画館が欲しいという声もある)必要。公共交通機関の整備も欠かせない。今のように土日はバスがない、などありえない。



「中学生になったら勉強に部活に頑張りたいです」の力強い言葉も聞きました。八十路超えとして思うのは、目、鼻、口、耳、高齢になると機能が衰え、不自由になります。今から丈夫で長持ちさす努力をお願いします。目は、千里眼。鼻は鼻利き。口は口害、無口。耳は地獄耳、など大事な機能いろいろです。では皆さんおめでとう。満開の桜のように笑顔で羽ばたいて下さい。(弓削 浜村寿)

若者が「帰りたい」「ずっと住みたい」と思えるような町を目指し、我々住民も、もつと声を上げていきませんか。(弓削 古賀佳子)

ケイブルテレビで各卒業式をみながら、特に弓削小に注視しました。昨夏、早朝のラジオ体操で共に歌い、共に手足を伸ばした子供たちが、どんな笑顔で映っているのだろうか。校長先生から「おめでとう」と卒業証書を手渡され、高々と受け取る姿。およそ70年前の自分たちの卒業式を思い浮かべようとしたがサッパリ記憶にありません。半世紀以上前なら仕方ないで許されても、この度の自民党のキックバック裏金問題での議員の返答に、国民の一人として「馬鹿にしないでよ!」と、怒りと無念の一言です。水を飲みながら、冷や汗を拭きふき、しどろもどろの「記憶にありません」の返答。我が国を導く国会議員の先生方、まさか桜を見る会の費用などと、冗談では済まされませんか。引退する二階さんはおとがめ無しとは、そんなのありですか!。ごめんなさい。卒業の祝いのつもりが、とんだ横道にそれました。弓削小では男女合わせ17人でしたか、家内と視ながら、誰々さんの子供さんよ、と。メガネをかけている子供さんが半分近くいるのに驚きました。我々の卒業式でメガネをかけていた同級生が居たかな?今はコンタクトレンズがあり、思うほど不自由は無いのかもしれないが、将来を思うと何かしら心配するところでは。

祝・卒業!

3月議会で令和6年度上島町一般会計73億3千200万円、特別会計41億9千669万9千円、合計115億2千869万9千円の当初予算案が審議され、議案は全て可決した。

予算は通ったが 海苔工場建設事業の問題点



海苔工場の建設予定地とされる弓削の日比地区

しかし賛成多数(7..5)で可決された一般会計予算のうち、水産業強化支援事業補助金5億7千559万2千円(海苔共同加工施設。事業主体は漁協弓削支所)については、議会で質問し疑義を質したが、答弁に納得できず、この予算には反対せざるを得なかった。その理由と疑問点については次のとおりです。

業に関連する資料等の提出もなく、財源や計画の進捗状況等の説明もないまま3月議会の一般会計当初予算案に計上された。

本来議案として議会で審議を求めらるべき、事業目的、運営主体、運営方法、資金に関する諸々の情報等を添えて俎上に上げるのが、ごく当たり前の方法論です。

この海苔加工工場の総事業費は7億4千270万円で、国が4億8千4万5千円(55%)、上島町が1億6千710万2千円(22.5%)、合計5億7千559万2千円(77.5%)を、漁協弓削支所に補助金として交付するわけだが、それに至った経緯や根拠、理由等については説明も関連書類等の提示もない。

常軌的には、漁協弓削支所から国や町に提出した補助金申請書や事業計画書、収支見込計

算書、施設管理運営書、設計図面等を基に審査された結果、補助金交付が決まったはずである。だとすれば、これら関連書類等示して議会で審議するのが当然であり、予算書に「水産業強化支援事業補助金」という12文字一行と金額だけの記載で、議員は何を根拠に判断できるのか？

普通なら事業の是非すら判断できないはずだが、こうした筋の通らないことに賛成する議員が居るのが不思議である。地球温暖化による海水温上昇と、海苔の成長に必要な栄養塩類が著しく減少していると言われ、事実海苔養殖量減少が続いているなか、増産にどう取り組むのか、自然相手にそれが可能なのか？

いずれにせよ昔の感性で乗り切れる状況ではないはずなのだが。(弓削 濱田高嘉)

町の財政は大丈夫？ 議会は役割を果たしているのか

国は地方公共団体の財政の健全性を判断するため統一的な指数を示しています。新聞報道によれば、昨年度上島町は愛媛県20市町の中で最下位でした。にもかかわらず上島町は別の指標をもって健全財政だと議会でも説明している。上島町の将来は、本当に大丈夫？

町の税収が5億円程しかないのに70数億円の予算をくみ、少子高齢化による人口減少が続く、交付税収入も減り続け、今までと同じ行政サービスを維持し続けることは大変困難な状況と予想されます。

収入を増やすことが難しいのであれば、支出を抑制するしかない。上島町はそのような行政となつていくのでしょうか？

例えば弓削高校学生寮の設計も、あらゆる資材が高騰していると言つて30室約6億円もの高額なものとなりました。不思議なことにより後に完成したFC今治の学生寮は、100室で約8億円と聞きます。少しでも税金の支出を控えるための競争入札でも、不可解にもわが町では1社入札で予定価格に限りなく近い高値で決まつており、支出を少しでも小さくしようと言う結果が見えてきません。そのしわ寄せは必ず町民一人一人のサービス低下につながっていくでしょう。

財布の中身が決まつている中、どこかにたくさん使えば、

どこかを削らねばならず、そのことが子供や高齢者への予算が増えない事につながっていくのか心配です。

多額の費用を要する施策は、それによりどれだけの多くの受益者がいるかも、よく議論をしなければなりません。

同じ税金を使うにしろ、どれだけ多くの町民が助かり喜んでくれるかも、施策検討課題として、議会でも議論してほしいものです。(生名 濱田和保)

安心して暮らせる町を目指そう

県境における 広域医療の充実

コロナは私たちの生活を一変させてしまいました。1月1日の能登半島地震をみれば、私たちの住む島で大きな地震が起きたらどうなるのか、を考えさせられました。

昨今、政府が言うところの想定外の出来事がたくさん起きていて、都度右往左往している姿を目の当たりにさせられています。確かに、思いもよらないことが起こることは仕方ないことです。ならば、せめて想定される心配事には解決策を探しておかねばなりません。

例えば、医療はどうでしょう。そもそも上島町は、魚島の診療所以外は、個人医院しかありません。

除幕式を行いました

歴父・村上貞先生記念碑



御礼

ワトスン第26号(4月)でお知らせ、ご協力をお願いした故村上貞先生の記念碑が出来上がり、去る4月14日、ささやかながらを除幕式を行いました。ご協力ありがとうございました。なお募金につきましては、5月中旬まで行っておりますのでよろしくお願いたします。

せん。幸いに町内の医院は、親切で評判のいいところばかりです。でもどこも医師は一人です。個人での後継者探しは、なかなか難しい感じがしますし、医師自身に何かあったときにはどうでしょう。地域の小さな医院ですから、大きな手術や専門的な施設が必要な病気に対処できないのが現状。そこどうするか。

期待したいのが広域医療です。でも現実には広域医療を実感できてはいません。わが町は県境で、多くの人が広島県側の病院に通院しています。例えばコロナの時は対応が県単位であったために、広島県側のいつもの扱いを受けるのか、という場面もありました。

このような状況を少しでも

少なくするのが、普段からの情報交換であったり、連携だと思えます。今まで通りのことをしていい良くなるはずがありません。少なくとも町内の医院には、日常的にご意見を伺つて、町の医療体制を向上させる取り組みが求められます。それを担う病院や医院、医師の存在こそが、国が推進している在宅介護や、災害時への安心への裏打ちの要です。

10年先20年先の自分たちの生活を考えれば、必要なものはおのずと見えてきます。高齢化率が50%を超えようかというわが町。合併して20年いままも安心して暮らせる町への転換を目指しましょう。

(岩城 大西幸江)





2024年(令和6年)
6月 第28号
発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

先日、町内高齢の友人がいきよ介護認定の手続きに取り掛かり、持病の進行や不測の事態に備えようと試みたところ、窓口から「本当に使うのか?」と訊ねられたという。本人にしてみれば心外であり、どういう意図があるのか図りかね、とても傷付く出来ごとだったと話した。

高齢化率が更に深まり、若いや孤立について策にも進化が求められる昨今、町の福祉関連予算は減少に転じている様だ。現状でも十分に孤独と不安を抱えている高齢の方々に応えていけるのだろうか?

かく云うわが家も上島町の転入に際し、家族の福祉手帳をこの町の物に替える必要に迫られた。しかし他自治体での申請作業に比べて条件を上乗

移住・転入して思う



各種福祉サービスにたどりつくのが容易でないので、手続きの改善を!

昨今のケア労働に携わる方々の賃金を見直す動きは全国的な流れだが、町は賃上げを見送った。全国平均をわずかに上回っているのが理由だ。だが、この全国平均自体を見直

し労働価値に見合うものに引き上げようというのが国の示した指針だ。これらは氷山の一角だろう。わが家のように幾つかの自治体に移るといふ経緯があれば、

増える子ども食堂
すべての世代を福祉的視点で支えようという上弓削地区のみんなの食堂。そこからみえてくるのは、高齢化地域における自助の姿だ。

全国的には、子ども食堂が9131か所(2023年12月)開設されており、この数は全国の公立中学校と同じくらいです。いかに多いかが伺えます。

そもそも子ども食堂は、日本の子どもたちの7人に1人が貧困という社会的構造から、それを支えるために有志が始めたもので、現在ではすべての世代を福祉的観点で支えるために運営される仕組みに変化していると理解しています。

上島町内には上弓削のみんなの食堂(毎月第4土曜日12時)と、今回のいきな子ども食堂(毎月15日17時)があります。どちらもコミュニティ

イ食堂を目指しており、どの年代の方にも来ていただいて、地域コミュニティづくりをしようとしています。とてもいい取り組みだと思っております。とはいえ、どんなよい取り組みにも、悩みは尽きないもので、人の問題、場所の問題、お金の問題など解決しなければならぬことは多く、その都度運営者と協力者たちの創意工夫で成り立っているというのが現状のようです。

今、過疎高齢化で大切にしてゆかなければならないのは、地域コミュニティだと思います。いつ来るかわからない災害、一人暮らしの不安など常に自助協力が先、公助はそのあとなど



4月15日から生名でも子ども食堂がスタート



とわれ、私たち自身で助け合わなければ、国や自治体は何もしてくれないかのような言い方をされます。本来自治体がやるべきことは、私たちの生活の下支えです。住民が活動すると言えれば喜んで協力する姿勢がなければいけません。子育て政策でお金を出すことだけが支援ではなく、今ある仕組みも活用して、いかにこの過疎高齢化を乗り切るか。少子化対策はどう行うのか。当然ここに住む私たち自身も悩み、考え、生き抜く姿勢が必要で。そのためには、行政はあらゆる情報をしっかりと開示し、住民の意見を聴き、小さい自治体だからこそできる細やかな取り組みが求められているのではないのでしょうか。(岩城 大西幸江)



最近気になること
オンコロコロ
カMEMシソロ

手続きの違いやおかしなルールに気付きこそすれこの町で困り感を覚え、この町で支援を求められるとき、どれだけの人が受けるかは、その人のサービスを知り、そこに繋がる術を手に出るだろう。どれだけの人が支援に辿り着き、家の中で抱えていた生きづらさをほんの少しでも支え合っているのだろうか。こうした支援の仕組みづくりは社会の成熟度が醸成するものでもあると思う。困り感のある人だけが自力で足掻き、運が良ければ助けが得られる日が来るかも?で済ましてはいけぬ。切り捨てられる社会は、生きにくさであり、全体にとっても住みにくさを作り出す。消費可能性自治体を脱する道のひとつに住民それぞれが、「わたしは困っていない。」という傍観をやめることであるように思う。困っている人に「共感してみることは誰もが出来る住みやすい社会醸成の一步ではないか。」(岩城 本田志摩)

庭のぶどうの木には新芽が続々と出てくるが、花が極端に少ない。昨年は豊作だった。今年は何作か? 愛媛県では3月からカMEMシ大発生とかで今年も警戒警報が発令されている。いくらずと警戒しても自然には力及ばず、というのが世の常。不作のブドウも、カMEMシ対策や、被害をうけて悔しがることがないという面では精神衛生上悪くないが、業としての方々には深刻な問題。下手にいじると悪臭芬々のカMEMシ。その人には好かれぬ資質も、実は自然界では何用かが用意されているというのが、いわゆる神の摂理とよばれるもの。それが何用なのかは、これから発見されるだろう。コオロギを食おうという時代、カMEMシも気になる存在である。(編集者・平山和昭)

ワトスンへの記事募集中
ワトスン編集係では、皆さんの投稿を随時募集中です。掲載記事への感想やご意見なども文字数は500字前後。郵送、電子メール等で。但し匿名ではお受け出来ません。

交通体系の改善

車を所有していつでも好きな時に移動が出来る人達には見えない交通の不便が、この町には存在する。その不便の解消のため町の交通体系を見直し、改善していくのが行政の努めではないでしょうか？

**使われないから使えないものになるのか
使えないから使われないものになるのか**

祝祭日に町内のバスが運行していないことなど、自分でも何とか出来る者にとつては気にも止まらない。でも頼るものがない交通弱者にとつては切実な問題です。

以前、因島のタクシー会社の社長に、立石港にタクシーを常駐してもらえないか話したことがあります。

「運転手不足と採算面が不安でそちらに配置できる状況に無い」と。

しかし、最初の何年か固定費等を町が補助するかすればどうでしょう。多くの町民にとつていつでもタクシーを頼める安心感と、今年度建設予定の海苔の加工場や、長年の随意契約で高止まりしているゴミ処理費などの大きな負担とを天秤にかけてみれば、その費用は安いものではないでしょうか。

以前の号でも触れたように、因島からの広島、尾道、福山などへのバスの発着所は、現在中央棧橋側になっている。それを長崎棧橋側に変更してもらえないか各バス会社に相談したことがありました。

「上島町民は本土へのバスに乗ろうと思えば長崎棧橋から中央棧橋まで荷物を抱えての徒歩が苦痛でバス利用を躊躇する傾向にある。バス会社も利用者を増やす方法がなかなか無い。しかし長崎棧橋までの23分余分に走るだけでバス利用者が増えるかもしれない。上島町民にとつても交通の利便性が増し、お互いにメリットがあるんじゃないですか？」と

中国バスと尾道バスの担当者は「そうですな、今まで何故そうなっていないか、たののか不思議に思っていました」と検討してくれるような手ごたえでしたが、本四バスの担当者は「上島町のフェリーを中央棧橋に着ければ？」。

因島バスの担当者は「長崎棧橋から中央棧橋まで当社の路線バスがあるのでそれを利用すればいいのでは」と。

そんなもん誰が乗るか！。とはいえ本来ならこのような問題こそ、個人的動きではなく、行政が発案して動いてほしいものではないでしょうか。

(生名 濱田和保)

厳しい傘寿超えに似た 厳しい上島丸の舵取り

桜舞う季節4月に、同級生かが逝き、続く鯉鯉泳ぐ5月にも逝く。還暦から傘寿までの20数年、(できる者で)できる事をしようというグループのリーダーでした。肉親とは違う寂しさを無念です。

造船と海運が元氣だった昭和33年、彼は金の卵で海運会社に就職、七つの海を行き通り、荒狂う時化の海を乗り越え、家族を養う海との人生航路でした。

♪船はいつかは戻るけど、なぜか戻らぬ人も居るよ。

はるみ節の切ない歌詞。生者必滅とは云え、当時の船乗り仲間としてもお悔やみ申し上げます。

船は船でも我が町上島丸も5か月後には町の舵取りである町長と議会の改選です。すでに風の噂が聞こえるようになって



りました。舵取りの船長には、現在3人の顔触れが予定され、議会は12人の定数に対し15人が乗り組もうとしていると聞こえてきます。船酔いしない乗組員を選びましょう。若い有権者も施設のお世話になっている高齢者も同じ一票。その

世界に遅れをとる日本(2)

夏坂周司 (岩城)

私達日本人に、世界に遅れをとる特徴があるとすればどうしたらよいか。欧米先進国は、キリスト教に裏打ちされた思考の基盤がありました。神と人間の二元論の体現者としてキリストが存在し、「個」が発見されて哲学が発展しました。

中国には儒教という思想基盤が、いまだに継承されています。日本には神と人間の二元的実在として天皇があるかと思いますが、明治までは陰の存在でした。

日本が仏教や儒教、キリスト教などを受け容れた背景には、汎神論や多神論の指向があったからだと思います。戦後もたら

された民主主義はアメリカンデモクラシーで、強者の民主主義でした。日本の社会的支配構造はそのまま温存され、市民的民主主義は充分育たなかったと思います。つまり、「人間」



「自由」などの考えが発展する余地はわずかでした。

私達がやるべきことは、これまでの知の蓄積に学び、「人間」に基軸を置いて「自由」に立脚した「個の確立」だと思います。それは「討論」で深化・発展し

ます。「人間としてどうなんだ」と考えれば、沖縄県民の立場に共感できますし、「自由が抑圧されていないか」と考えれば、沖縄の苦悩が理解できます。もし、力に訴えたと破滅しかありません。それは「戦争」を見ると明らかです。徹底的に討論を尽くす、それが問題解決の唯一の方法だと思えます。

「人間と自由」の基軸は、日本の遅れを取り戻し、再建する近道のひとつと考えます。

「人間・自由・討論」という軸を思考の中心にすると考える理由がそこにあります。これからの日本を生きる若い人たちの考えを、ぜひ聞かせて貰いたいと思います。

1票の積み重ねが上島丸の安心・安全航行に繋がります。70年ほど前、離島の小さな町が県立高校創立に島ぐるみで協力して実現したその弓削高校が、今や存続危機で全国に甘いワサビを投じました。当時設立に尽力した方々が思いもしなかった、まさかのまさかです。

1ブルテレビで候補者の政見放送が住民の目に届くよう準備をお願いします。有権者の皆様も、今から候補者の政策、活動含め、立候補予定者の言動に意識をそそぐ努力をしましょう。

オリンピックも激戦の末に金の輝きがあります。選挙の激戦は疑似餌のようなリップサービスではなく人間性と政策の中身で勝負し、金に輝いて欲しいものです。

（弓削 元船乗り浜村寿）

歴父・村上貢先生記念碑完成



村上貢先生記念碑建立に対し町内外から多くのご協力を頂きました。その方々のご芳名録を5月22日取り付け、事業が完了いたしました。ここに改めてご協力感謝いたします。

「濱田國太郎を顕彰する会」
代表代行・濱田哲久(生名)
代表代行・濱村壽(弓削)



2024年(令和6年) 9月 第30号

発行:上島町自治研究会 〒794-2506 越智郡上島町下弓削515 NPO法人・頼れるふるさとネット気付連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭) Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体 上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
●活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地 「やよみ亭」にて開催。
●入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

2026年4月に因島医師会病院と日立因島総合病院が統合、因島総合病院は廃止するという合意がこの8月6日になされたことをご存知でしょうか。

これは上島町民にとつては大問題です。因島病院の夜間救急受け入れがなくなったときも驚きましたが、ついに病院自体がなくなる。1年半ほど先の話ですが、のんびりできる問題ではありません。

統合されたのちの病院の性質は、初期治療と、回復期から在宅へむけての医療提供体制とされ、高度急性期医療は本土側の総合病院で担うということらしい。

医療機関の統廃合は人口減がもたらす地域医療の危機。

生涯島で暮らすため我々は何をすべきか

病院としてわが町から通院している人も勤務している人も多い。そこが廃止される。ではどうするのか。町内の医療体制と交通体制を見直すしかない。



▲永年果境をまたぎ、わが町の医療を担ってくれた日立造船健康保険組合因島総合病院遠景

いでしよう。病院を選ぶのは患者の自由なので、どこで受診してもよいにしても、離島で総合病院のない自治体としては、周辺地域をひとまとめにした医療広域連携策や、1次医療を個人医院にお任せでは、安心して暮らせません。

(岩城 大西幸江)

ペット防災 あなたは何を備えますか

南海トラフ地震の発生に注意喚起がされる昨今。人の避難や備蓄はもちろん、一緒に暮らす動物たちについても備えを進める必要があります。

この他にもトイレ用品、ケガの手当てが出来るものや常備薬も持ち出し出来るように。加えて気になっているのが、わが家の犬たちの社交性です。

島では日常的に犬が他の犬と一緒に遊べる公園等がなく、刺激の少ない静かな地域です。見つけて過剰に反応する日々があります。また、犬が社会化する幼少期を人の身勝手にやり適切に過ごせなかったわが家の保護犬には、なお険しです。



(岩城 本田しほ)

選挙と日本人



婆さんの言いたい放題

サー宛に出した50万通の手紙を解説し、日本人像を探っている。手紙だけでなく、郷土の名品を送り、元帥の銅像を建てたいと願っている。1951年、突然元帥は解任され帰国し、米上院公聴会で、「日本人は12歳」と述べたことを知り、日本人は熱が冷めたように引いてしまった。

婆さんは、敵将であっても支配者になればひざまずく日本人に驚いた。これは地震や台風など災害多発国の日本人が身につけた「通り過ぎるのを待つ」習性なのか？

昔から「御上」「上様」と支配者にひれ伏してきた。だから政治改革は容易ではない。

(東京 早川和江)

選挙について考えてみました。7月の都知事選はひどかった。56人が立候補してポスターの大掲示板が建てられた。しかし、どこの掲示板も10人ほどが貼られているばかりでした。選挙公報も特定団体24人は、名前だけ変えて内容は同じものでした。テレビの公開演説もひどいものだったらしい。衆愚政治の極みです。

バカ騒ぎをして当選したのは、現職3期目の知事でした。なぜ政治は変わらないのか。3年前、古本屋で『拝啓マッカーサー元帥様(占領下の日本人の手紙)』袖井林太郎著・中公文庫1991年刊(初版85年刊)を見つけて読みました。

著者は米国公文書館にあった、占領期に日本人がマッカー

私たちの町の政治は、私たちの選択次第。身近な政治に関心を持ち、賢明な判断を

ロシア、中国、北朝鮮等を見てみると長期政権は独裁的になり、まともな結果をもたらさないのは明らかです。それらの国民はそんな指導者を選んだ責任があり、ある意味自業自得であるかもしれない。とは言え権力者による情報操作により事実を知らされず、多くの人は偽情報で判断している事実は自覚できていないのではないかと

私たち日本人は、先の大戦で敗戦を経験し、平和の大切さ、有難さを知っています。そして約80年間平和を享受してきました。それは私たち日本が反省し、他国を攻め脅かす事をしなかつたからでしょうか？いやむしろ、近隣諸国が、様々な理由により日本の平和を脅かす状況に無かつたからではないのか？

日本の憲法は今現在も他国を攻め侵略出来るように定められていません。しかし攻めて来る国が無い事を前提に守る事もまたもて来ない状況のまままでいいのでしょうか？国際法上も日本の領土であるはずの尖閣や、また台湾や南沙諸島までも領土拡大の食指を伸ばす中国や、自国の体制を守るため他国を攻める事さえ厭わず核開発やミサイル開発

などの武力拡大を続ける北朝鮮や、勝手な言いがかりをつけてウクライナの領土を侵略しているロシアなどを隣に持つ我が国は、まさか日本を攻撃して来る国は無いだろうと言う平和ボケした考えをいつまでも引きずっていて大丈夫なのでしょうか？

日本は第二次世界大戦の敗戦後、アメリカ統治により自由な国として自立させてもらえた事は奇跡であり、今現在の近隣諸国の国柄、状況からして、もしそれらの国に侵略されれば多くの国民が殺され自由を奪われ、奴隷のごとく扱われるのは必然だと思えます。右の頬を打たれば左の頬を差し出せば平和に解決すると思っている人はあまりにも甘すぎると思いますが、要は長期政権を許していることとんでもない事になるといえます。

政治に憤りを感じてもどうにもならない無力感を覚えれば諦めの境地となりがちですが、しかし私たちが町の政治は、私たちの選択次第で何とかなるはずで、であるならば身近な政治に関心を持ち、賢明な判断をしてゆくことが大事かと思ふところです。

(生名 濱田和保)

「祝・上島町合併20周年」の縦横幕を見ながら、あれからはや20年が過ぎたか、が実感です。4島の住民の皆さんはどの様に受け止めますか。私が近々思うのは、合併に伴い地方では理事者も議員も大幅に減少しました。が、なぜか国会議員は現状維持。不自然に思うのは私だけでしょうか。その議員が裏金、キックバック等の不祥事とは情けない限りで



▶6年ぶりの下弓削区の盆踊り風景。若い人が多かった。

すが、我が日本を左右する大手企業の不正、不始末も情けない限りです。以前食品の産地偽装を述べましたが、誰を、何を信用すればよいのでしょうか。リップサービスだけの詐欺島が繁殖するのはなぜでしょう。新年早々、能登北陸震災で命を奪われた方々の新盆の季節となりましたが、先日宮崎沖で地震があり「南海トラフ地震」の活字が新聞紙面に踊りました。直後神奈川県周辺にも地震があり、南海トラフ地震の危機意識が現実味をおびて来ました。

79年前のこの時季、キノコ雲が8月6日広島、9日長崎に立ち昇り、多くの犠牲者がました。原爆ドームの残る広島県出身の総理が、世界の核廃絶の旗振り役を先頭で汗を流す努力を望むところですが期待薄です。以前「ほっとけな」というフレーズの選挙ポスターがありました。もう時効ですかね。

夏が来ると冬が良い、冬が来ると夏が良いと、人間様ほど身勝手な生き物は他には見当たりません。酷暑の日々、水分補給し救急艇のお世話にならない努力をしましょう。

(弓削 浜村寿)

映画自主上映会のお知らせ

『〇月〇日、区長になる女。』
ベヤンヌマキ監督 上映時間 110分

- 日時：2024年9月22日(日)
- ①午前10時～ 岩城総合支所2F
- ②午後3時30分～せとうち交流館
- 参加費：当日券 1,000円
前売券 800円

※前売り券のお申し込みはQRコードのフォームまたはお電話で。
●当日、これから町政や議会を担いたい方々のパンフレットあるいは名刺等を持参された方は前売料金で鑑賞いただけます。



多くの方のご参加をお待ちしています!

【解説】映画のタイトルに惑わされなくてほしい。この映画の本質は、杉並区長選挙を舞台に、地域で住民が直接参加し合理的な未来を検討する姿。候補者と支援者たちが、悩み考え、ぶつかりながら、合意形成のための対話を積み重ねていくやり取りを丁寧な「ミュニシパリズム」への挑戦を描き出したことにあります。住民の政治参加を、選挙による間接民主主義に限定しない”現在進行形”のミュニシパリズム。百聞は一見にしかず。それを、ぜひ会場で体感してみてください。

主催：ローカルデモクラシー向上委員会

壬生優子(弓削) ☎ 09049021397 Eメール：ym@localdem.com

月例会から

開催日時：6月22日(土) 14時～16時
7月27日(土)

場所 上島町自治研究会事務所 (下弓削515・やよみ亭)

- ① 感染症の大流行や大規模災害などが発生した場合に国が自治体に必要な指示ができる特例を盛り込んだ改正地方自治法
- ② 選挙公報
- ③ 6月議会で一般質問のあった町内消防団の統合提案
- ④ 町における福祉関係部署の対応姿勢
- ⑤ 行政受益者の世代間格差

※月例会は基本毎月第4土曜日に開催しています。自由参加型ですのでふらりとお越しください

ワトスンへの記事募集中!

ワトスン編集係では、皆さんの投稿を募集中です。但し匿名は不可です。編集の都合上文字数は800字以下でおねがいします。

●古民家「やよみ亭」を活用してくたさる方を募集中! お問い合わせは090-824-7152(9時～)まで

▼町の課題について語り合う自治研究会のメンバー



「変革は、弱いところ、小さいところ、遠いところから」

住みたくなる町で人口減を止めよう

司会 多数決だが少数意見を尊重するというのが民主主義と言われるけど、ではその尊重するというのはどういうことかという、国会でも自民が単独過半数握っているので問題ある議案でもしやにむに多数決で押し通してしまいうやりにかたに現れているように、議決という方法論の誤解がある。まああわかってやってんだらうが、本来なら問題ある議案は徹底的に議論を尽くし、その問題を修正して通過させる、というのが少数意見を尊重すること。

なことから予備船はいらんのではない。予備船だつていざというとき使うのならメンテも必要で維持費もかかる。

人口減の歯止めには 人と人の動きへの投資が欠かせない

濱村 草刈り業務をしてきた経験からいうと、それぞれの島の草刈りはそれぞれ島の業者に委ね、区長や地区長にそのエリアの草刈りやら年間計画や除草時期等をお知らせする。ことに観光資源として外部へ広報しているような場所はいかに整備してあげとく、



本田しま 議員(選予定)

国延隆彦 僕がこのまえ傍聴に行つて感じたことは、道の駅なんかより、こんだけ荒らしている畑をどうにかしたらどうかということ。草刈り隊を見てても、もうちよつとやり方を考えたらどうか。別にせんでもいいようなところを刈つたりしている。

司会 本田さんの問題意識は？

というのも、人が来る要素になるのではないかと思うなあ。役場の職員も仕事も忙しくて手が回らないのなら、区や地区に協力をあおぐということになれば、町全体で美化に取り組んでいる姿にもなる。移住者の方々の就労の場を確保するためには、除草の講習を町費でまかない、一時的にも働く場を考えてあげることも大事かと思う。

濱村 草刈り業務をしてきた経験からいうと、それぞれの島の草刈りはそれぞれ島の業者に委ね、区長や地区長にそのエリアの草刈りやら年間計画や除草時期等をお知らせする。ことに観光資源として外部へ広報しているような場所はいかに整備してあげとく、

司会 なるほど。実はこの本棚に「変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから」という本があるんですけど、一つの実践例です。本気でやる気になればできるということ。司会 さつき船の話がでたけど、芸子汽船今治航路の問題はどう考えたらいいか。

濱村 上島町は弓削商船高専のある島。過去船乗りの町として栄えた。夢よもう一度、で

国延 乗組員と話しても、もう会社はたたまむ気ではないんだよね。

濱村 上島町は弓削商船高専のある島。過去船乗りの町として栄えた。夢よもう一度、で

はないけど、全国に先駆け、島特有の公共交通に力を入れて欲しいですね。芸子汽船、魚島航路、立石フェリーも含め、4島を結ぶ観光を兼ねた運行船もほしい。それを上島町公営事業課が窓口で運行運営すると考えたらどうだろう。役所は町の数少ない就職の場なんだから。

司会 このまえ防災講演会を聞きに行ったんだけど、自主防災組織の運営と地域連携活動という話だった。それと能登震災地へボランティア報告。そのとき消防防災課からのお知らせとして防災連絡協議会というのを組織するという。上島町に防災リーダーや防災士が誕生した2010年7月、「弓削佐島防災士・防災リーダー連絡協議会」という任意団体を、当時の下弓削区長や私が発起人になってつくり、その後濱村さんが会長、私が事務方として全町の組織化を目指したが、うまくいかなかった。今般は役場が呼びかけたせいとか大勢の防災士が講演を聞きに来た。なので全町の組織化もできるだろう。それについてなんか思うことありますか？

濱村 本当は合併時に断行すればよかったのだから、それぞれの島の文化が違うので難しいとおもわれたのかもしれない。しかしそろそろそれをやらねばならない時期にきているのではないか。

司会 そうだね。行政が先頭に立つてやれば住民はついてくるはず。強い問題意識と志をもった人を行政の場に送り込もうという有権者の意思が改革への第一歩ではないか。議会も行政機関の一翼なんですかね。そういう意味ではメンバーや新人が全員当選し、町の存続にむけ努力してほしい。消滅可能性ナンパーワンの町なんだという危機感、ぜひ町民全体で持たねばと思えますね。語ればまだまだ問題課題はありますが、またの機会にというので今日の座談会はこれ

国延 乗組員と話しても、もう会社はたたまむ気ではないんだよね。

濱村 上島町は弓削商船高専のある島。過去船乗りの町として栄えた。夢よもう一度、で

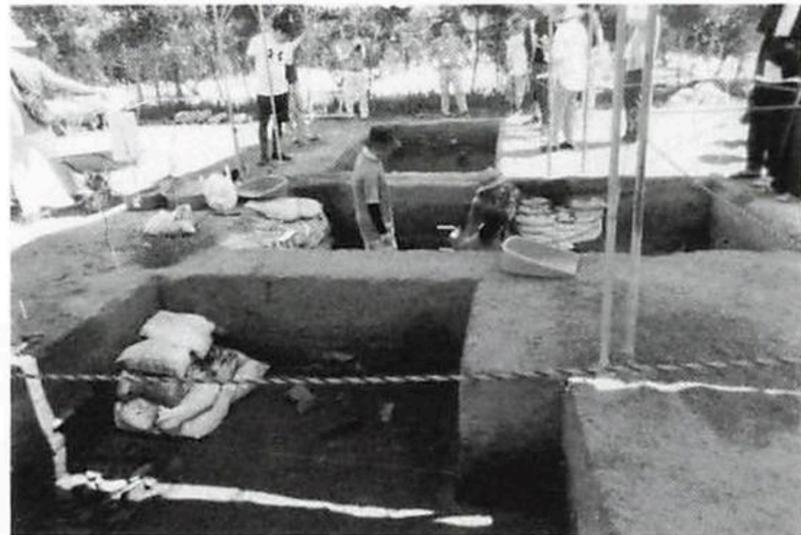


2024年(令和6年)
 8月 第29号
 発行:上島町自治研究会
 〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
 NPO法人・頼れるふるさとネット気付
 連絡先 Tel 090-8247-5279 (平山和昭)
 Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

- 自由参加型任意団体
 上島町自治研究会・会則抜粋
- 目的
 - ①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることが目的とする。
 - ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する住民の自主的活動を応援する。
 - ③会は定期的に自治研究会を開催する。
 ※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
 - 入会/退会
 - ④入退会には特に条件を定めない。

上島町の歴史と文化を 次世代に繋げるために

町外の人たちに町の歴史の説明を求められたら、皆さんはどんな事をお話になりますか？
 上島町という町の歴史は平成の合併が行われてから僅か20年ほどです。しかしそれを構成する島々の歴史は、はるか昔から脈々と受け継がれてきています。
 町の歴史・文化については、上島町総合計画の中に「町の歴史・文化を継承し活かすまちづくり」を目標として、歴史・文化を通じての交流や史跡回遊などの文化財活用により地域の活性化を図り次世代に継承できる人材を育成していく」となっています。しかしそれらは、最近になって急に言われ始めたことではなく、ずいぶん前より言われ続けていることです。が、今現在、町外の方に簡潔に説明できる人がどれほどいらっしゃる事でしょう。



《多岐にわたる地域の歴史文化をどう伝えるか》



▲佐島地区では愛媛大学による古代製塩遺跡等の発掘調査が継続していて全容解明はまだ先のことになる。
 左：麻生イト像
 右：濱田國太郎像

山遺跡、魚島の大木遺跡、佐島の宮ノ浦遺跡、弓削の久司山古墳群などの多くの遺跡があります。又、国の史跡に指定された荘園時代の「弓削の荘」に関する文献記録・遺物・遺跡などや、戦国時代に活躍した村上源氏の痕跡、江戸時代には参勤交

自然と共存する生活の 困難さと町へのお願



▲ひとたび雨が降れば川と化す道路(筆者自宅付近)

ひと雨ごとに緑が勢いづくこの頃、みなさまにおかれましては数に迫られてお暮らしではありませんか？
 背戸に楠の大木と竹藪を背負う家が、春から初夏は楠の芽吹に伴う落葉に身構え、生える各種竹の子たちを倒して歩く季節。そして恵みの雨を受けてはモリモリ育つ雑草に牧草たち。町内では一斉清掃が行われ、道路脇や側溝を手入れするハードな作業後は、堪らず身体の悲鳴が聞こえてきます。
 まとまった雨に伴い、山に通じる水路は雨水と泥と落ち葉に枯れ木を運びます。水路のない水の道では、遠慮なく庭先を通り抜け雨水が地形を変えてゆきます。空き家からは枯葉が流れ出、ニヨキニヨキと伸びた枝が垂れさがります。
 2018年水害後に築かれた土砂崩れを防いでくれる壁。その上にも木は生い茂り、ふもととは枯れ枝に落葉で賑わい溝

待たれる

筆者の議員時代に「上島町歴史文化資料館」づくりに取り組んだらどうかという提案をし、取り組むことになった。その後、基本構想策定委員会が都合3回開催され、都度傍聴を行った。委員会の答申をうけ、2024年3月、構想が策定され、「仮称」上島町資料館基本計画」が町のインターネットホームページにも掲載された。それを読むと会議の傍聴を通じてはがゆく感じていたことがそのまま現れている。そこには一般論とも言える当たり前のことしか書かれてなくて、いっとう具体化

上島町歴史文化資料館完成を

いつまでに〇〇という方法で実現したい、という「最初のボール」を作って投球するべきなのに、そのボール自体を委員会やコンサルに作ってもらおうという姿勢。これではなかなか前へ進めまい。役所の

政策立案力が弱すぎということになりはしないのか？
 「歴史資料館」とはいえ、町の財力や立地条件から、どう考えても一極集中的な大施設を新設するのは妥当ではなからう。むしろ岩城、生名、弓削、魚島地区の既存の資料等の再整理と、各地の開発センターや空き校舎を資料館化し、学芸員を貼り付け、連携した展示の仕組みをつくり、広く公開すれば、資料館が観光施設化し、興味を持つ人々をひきつけるだろう。その気さえあればすぐにでも開始できるのではないか。
 (弓削・平山和昭)

(岩城 本田しま)

年に584万人」「SNS消費者相談8万件」と、恐ろしい数字が並ぶ。でも自分が該当すると思わない。

特殊詐欺被害にあった人の95.1%が「自分は被害に遭わないと思っていた」と答えるという。人間は能天気にてきているらしい。

そんな婆さんでも腹が立つのはSNSの匿名書き込みである。毎日、被害者の報道がある。かつては匿名にして本音を言うということが行われたが、今は匿名にして嘘八百だ。嫌な世の中になったものだ。故にどうか、「ワトスン」の匿名拒否はさすがである。

(東京 早川和江)

81歳の同窓会



昭和33年(1958)3月、母校の中学校を卒業した同窓会が開かれた。名簿によると同窓生130名、内32名が死亡、所在不明が20名、出席者が20名であった。所在不明の半分を死亡と考えると、3割ぐらゐが亡くなっていると考えられる。

出席者は皆元気である。昔の面影が残っている者もいたが名前が出てこない。80を超えて生きていられて幸せであるが、これからが大変である。筋力は落ち記憶力も落ちてヨロヨロである。

社会に目を転じると「日本人83万人減(23年人口)」「消滅可能性自治体4割超」「空き家過去最高900万戸」「孤独死6万8千人」「認知症高齢者2040

選挙公報の否決と議会の現状を考える

親戚だから、義理があるからという慣習は終わりにしましょう!!

六月議会において、選挙公報を発行するための条例案は5対7で否決されました。全国自治体の70パーセントで、すでに発行されており、高校生の模擬選挙、生徒会役員の選挙においてさえあたり前のこととして登場する選挙公報。それが否決されてしまう議会にあきれいています。

この一年、私はできる限り議事を傍聴してきました。残念ながら質問する議員は限られており、重要な案件においても問題が深められ活発な議論が交わされるという場面は見ることがありません。行政の意向にそつて、ただ賛成か反対の起立をする。それだけを仕事と心得ている議員もいるのでしよう。

そうやってごみ袋も値上げされました。弓削高校の寮が建設され、寮費は、採算の見通しも示されないうまま3万9千円で強行されました。そして今七億にのぼる海苔工場の建設が計画されている。道の駅、マリナ構想も消えたわけではないうです。

いつぼう、芸予汽船の減便には何の対策もとられないことな、住民は不便を強いられる。島での生活は急激な物価高騰にも無力です。



本来離島交付金というのは離島の生活を援助するためにあるのでは? 行政は建物をつくるより、まず住民の生活を守ることにその活用を考えてほしいものです。ともあれ有権者であるわれわれにも責任がある。親戚だから、義理があるから投票するという慣習は、もう終わりにしましょう。今こそ上島町の将来を決めるという観点に立つて貴重な一票を使うべき時です。選挙公報に公約を載せることにもつながります。条例がなくても「お知らせ」という形をとることもできる。ホームページ

選挙の透明性と有権者の知識向上 ケーブルテレビと他の手段の活用提案

ワトスンをお読みになった皆様にご一緒に考えていただきたいことがあります。前回の投稿で次期選挙にケーブルテレビを利用し、候補者の顔と公約等が有権者に届くようお願いをしました。ところがケーブルテレビでの政見放送はできないと言います。残念。公開討論会も厳しい制限があるらしい。選挙期間が短いことが主な理由のようですが、しかし4年に一度の上島町を左右する選挙。せつかくもっているケーブルテレビという宝を利用し、有権者に清き一票を投じていただく策として、本当にできないものでしょうか?

投票率をあげる為に出前投票場を設けるのも大切。特に初めて選挙権を手にした十八歳の若者や、移住者の皆さんは、候補者のことをよく知らない



すでに他町で実施されている選挙公報の実例

ーじも活用できます。私は候補者全員の公約を見比べて貴重な一票を投じたいと思うので。(弓削 古賀佳子)

と思います。では一票を投じる判断は何をもってすればいいの、と思うところですが。今はケーブルテレビの利用ができませんのであれば、では出来る方法を考えて欲しい。それが行政のお務めではないでしょうか。お願いしますよ。

選挙のたびに思うのは、いつまでも変わらぬ選挙のやり方。たとえば期日前投票が簡単にできるようなったのに、最終日の投票締め切りは、やはり午後八時まで。期日前投票の立ち会い人と立会時間、ポスター掲示板の再利用と掲示板の数など、選挙にかかる費用を減らす工夫ができないものか。法律がどうたらいいですが、ではそんな無駄を生む法律を改善する動きを、地方から、末端自治体から発信できないものなのか。国会議員の先生等は、裏金作り、キックバックの知恵はあれど...ですかね?。

最近ビックリしたのは、過去国政選挙ならありました。電話で、貴方は〇〇党を支持しますか?。選挙に関心がありますか?。同じようなことがすでに上島町町長選に対する電話が2回もありました。〇〇候補者の実名での問い合わせに驚くところですが。告示もしていないのに国政並の電話が既に始まっています。固定電話の皆さんには届いているかと思えます。上島町の将来も大切ですが、今も大切に、をお願い致します。なるかならないか。やるかやらないか。行政も地域のお世話役も、するかしらないか、だけです。(弓削 浜村寿)

《お詫び》ワトスン7月号は編集人都合により臨時休刊とさせていただきます。お詫びいたします。

新案内板が完成しました!

海父・濱田国太郎像&歴父・村上貢先生記念碑



※案内板は役場生名支所近く

▲瀬戸内海生名島は厳島にある旧日本海員組合生みの親、郷土出身の海父・濱田国太郎像と、この度完成した郷土史家、歴父・村上貢先生記念碑への案内板を、記念碑建立事業寄付金の残金で新たに設置いたしました。あつちからも、こつちからも見える2面製です。この事業にたくさんのお力をいただきました。心より御礼申し上げます。

(制作は生名島出身のイケモト 広吉様)
濱田国太郎を顕彰する会



2024年(令和6年) 9月 第30号

発行:上島町自治研究会 〒794-2506 越智郡上島町下弓削515 NPO法人・頼れるふるさとネット気付連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭) Eメール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体 上島町自治研究会・会則抜粋

●目的

①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。

●活動

- ②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地 「やよみ亭」にて開催。
●入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

2026年4月に因島医師会病院と日立因島総合病院が統合、因島総合病院は廃止するという合意がこの8月6日になされたことをご存知でしょうか。

これは上島町民にとつては大問題です。因島病院の夜間救急受け入れがなくなったときも驚きましたが、ついに病院自体がなくなる。1年半ほど先の話ですが、のんびりできる問題ではありません。

統合されたのちの病院の性質は、初期治療と、回復期から在宅へむけての医療提供体制とされ、高度急性期医療は本土側の総合病院で担うということらしい。

医療機関の統廃合は人口減がもたらす地域医療の危機。

生涯島で暮らすため我々は何をすべきか

病院としてわが町から通院している人も勤務している人も多い。そこが廃止される。ではどうするのか。町内の医療体制と交通体制を見直すしかない。



▲永年果境をまたぎ、わが町の医療を担ってくれた日立造船健康保険組合因島総合病院遠景

いでしよう。病院を選ぶのは患者の自由なので、どこで受診してもよいにしても、離島で総合病院のない自治体としては、周辺地域をひとまとめにした医療広域連携策や、1次医療を個人医院にお任せでは、安心して暮らせません。

(岩城 大西幸江)

ペット防災 あなたは何を備えますか

南海トラフ地震の発生に注意喚起がされる昨今。人の避難や備蓄はもちろん、一緒に暮らす動物たちについても備えを進める必要があります。近年、被災地の諸問題から学びとして、国はペット同行避難を推奨しています。わが家では犬たちについて、ペットフードや水に始まり、クレートやテントなどキャンプ用品に準じた備えをいくつかしています。

この他にもトイレ用品、ケガの手当てが出来るものや常備薬も持ち出し出来るように。加えて気になっているのが、わが家の犬たちの社交性です。島では日常的に犬が他の犬と一緒に遊べる公園等がなく、刺激の少ない静かな地域です。散歩中に遠くく犬猫を見つけて過剰に反応する日々があります。また、犬が社会化する幼少期を人の身勝手に適度に過ごせなかったわが家の保護犬には、なお険しです。

フレンドリーに過ごせるよう、被災時の備えとしても日常的にプラス体験を積んでいきたいです。この町にはペット同居世帯が案外と多いです。町や地域の想定にペット同伴可能な避難所は有りそうでしょうか?被災時の人の健康被害を最少化出来るか、もペット同伴可能な避難所の有無によって大きな差を生じるでしょう。ペットによかれと飼い主の車中泊が長引くなどするとエコノミー症候群等リスクも高まります。

家族であるペットから、メンタル面でストレス回避や癒しを得て暮らしている方々の被災時を支えられるか、という話でもあり、健康上の理由や、犬猫を生活スペースに入れることを良しとしない方々の被災時の大切な砦となる話でもあります。

今後、よりよい備えとなるよう地域ぐるみの協議や情報共有が進むことを切に願います。私ごととして今出来る備えについて、さらに具体化し実践していきたいです。

(岩城 本田しほ)



選挙と日本人



婆さんの言いたい放題

選挙について考えてみました。7月の都知事選はひどかった。56人が立候補してポスターの大掲示板が建てられた。しかし、どこの掲示板も10人ほどが貼られているばかりでした。選挙公報も特定団体24人は、名前だけ変えて内容は同じものでした。テレビの公開演説もひどいものだったらしい。衆愚政治の極みです。

バカ騒ぎをして当選したのは、現職3期目の知事でした。なぜ政治は変わらないのか。3年前、古本屋で『拝啓マッカーサー元帥様(占領下の日本人の手紙)』袖井林太郎著・中公文庫1991年刊(初版85年刊)を見つけて読みました。

著者は米国公文書館にあった、占領期に日本人がマッカー

サー宛に出した50万通の手紙を解説し、日本人像を探っている。手紙だけでなく、郷土の名品を送り、元帥の銅像を建てたいと願っている。1951年、突然元帥は解任され帰国し、米上院公聴会で、「日本人は12歳」と述べたことを知り、日本人は熱が冷めたように引いてしまった。

婆さんは、敵将であっても支配者になればひざまずく日本人に驚いた。これは地震や台風など災害多発国の日本人が身につけた「通り過ぎるのを待つ」習性なのか?

昔から「御上」「上様」と支配者にひれ伏してきた。だから政治改革は容易ではない。

(東京 早川和江)

私たちの町の政治は、私たちの選択次第。身近な政治に関心を持ち、賢明な判断を

ロシア、中国、北朝鮮等を見てみると長期政権は独裁的になり、まともな結果をもたらさないのは明らかです。それらの国民はそんな指導者を選んだ責任があり、ある意味自業自得であるかもしれない。とは言え権力者による情報操作により事実を知らされず、多くの人は偽情報で判断している事実は自覚できていないのではないかと。

私たち日本人は、先の大戦で敗戦を経験し、平和の大切さ、有難さを知っています。そして約80年間平和を享受してきました。それは私たち日本が反省し、他国を攻め脅かす事をしなかつたからでしょうか？いやむしろ、近隣諸国が、様々な理由により日本の平和を脅かす状況に無かつたからではないのか？

日本の憲法は今現在も他国を攻め侵略出来るように定められていません。しかし攻めて来る国が無い事を前提に守る事もまたもて来ない状況のまままでいいのでしょうか？国際法上も日本の領土であるはずの尖閣や、また台湾や南沙諸島までも領土拡大の食指を伸ばす中国や、自国の体制を守るため他国を攻める事さえ厭わず核開発やミサイル開発

などの武力拡大を続ける北朝鮮や、勝手な言いがかりをつけてウクライナの領土を侵略しているロシアなどを隣に持つ我が国は、まさか日本を攻撃して来る国は無いだろうと言う平和ボケした考えをいつまでも引きずっていて大丈夫なのでしょうか？

日本は第二次世界大戦の敗戦後、アメリカ統治により自由な国として自立させてもらえた事は奇跡であり、今現在の近隣諸国の国柄、状況からして、もしそれらの国に侵略されれば多くの国民が殺され自由を奪われ、奴隷のごとく扱われるのは必然だと思えます。右の頬を打たれば左の頬を差し出せば平和に解決すると思っている人はあまりにも甘すぎると思いますが、要は長期政権を許していることとんでもない事になるといえます。

政治に憤りを感じてもどうにもならない無力感を覚えれば諦めの境地となりがちですが、しかし私たちが町の政治は、私たちの選択次第で何とかなるはずで、であるならば身近な政治に関心を持ち、賢明な判断をしてゆくことが大事かと思ふところでは。

(生名 濱田和保)

「祝・上島町合併20周年」の縦横幕を見ながら、あれからはや20年が過ぎたか、が実感です。4島の住民の皆さんはどの様に受け止めますか。私が近々思うのは、合併に伴い地方では理事者も議員も大幅に減少しました。が、なぜか国会議員は現状維持。不自然に思うのは私だけでしょうか。その議員が裏金、キックバック等の不祥事とは情けない限りで



▶6年ぶりの下弓削区の盆踊り風景。若い人が多かった。

すが、我が日本を左右する大手企業の不正、不始末も情けない限りです。以前食品の産地偽装を述べましたが、誰を、何を信用すればよいのでしょうか。リップサービスだけの詐欺島が繁殖するのはなぜでしょう。新年早々、能登北陸震災で命を奪われた方々の新盆の季節となりましたが、先日宮崎沖で地震があり「南海トラフ地震」の活字が新聞紙面に踊りました。直後神奈川県周辺にも地震があり、南海トラフ地震の危機意識が現実味をおびて来ました。

79年前のこの時季、キノコ雲が8月6日広島、9日長崎に立ち昇り、多くの犠牲者がました。原爆ドームの残る広島県出身の総理が、世界の核廃絶の旗振り役を先頭で汗を流す努力を望むところですが期待薄です。以前「ほっとけな」というフレーズの選挙ポスターがありました。もう時効ですかね。

夏が来ると冬が良い、冬が来ると夏が良いと、人間様ほど身勝手な生き物は他には見当たりません。酷暑の日々、水分補給し救急艇のお世話にならない努力をしましょう。

(弓削 浜村寿)

映画自主上映会のお知らせ

『〇月〇日、区長になる女。』
ベヤンヌマキ監督 上映時間 110分

- 日時：2024年9月22日(日)
- ①午前10時～ 岩城総合支所2F
- ②午後3時30分～せとうち交流館
- 参加費：当日券 1,000円
前売券 800円

※前売り券のお申し込みはQRコードのフォームまたはお電話で。

- 当日これから町政や議会を担いたい方々のパンフレットあるいは名刺等を持参された方は前売料金で鑑賞いただけます。



多くの方のご参加をお待ちしています!

【解説】映画のタイトルに惑わされなくてほしい。この映画の本質は、杉並区長選挙を舞台に、地域で住民が直接参加し合理的な未来を検討する姿。候補者と支援者たちが、悩み考え、ぶつかりながら、合意形成のための対話を積み重ねていくやり取りを丁寧な「ミュニシパリズム」への挑戦を描き出したことにあります。住民の政治参加を、選挙による間接民主主義に限定しない”現在進行形”のミュニシパリズム。百聞は一見にしかず。それを、ぜひ会場で体感してみてください。

主催：ローカルデモクラシー向上委員会

壬生優子(弓削) ☎ 09049021397 Eメール：ym@localdem.com

月例会から

開催日時：6月22日(土) 7月27日(土)
14時～16時

場所 上島町自治研究会事務所 (下弓削515・やよみ亭)

- ① 感染症の大流行や大規模災害などが発生した場合に国が自治体に必要な指示ができる特例を盛り込んだ改正地方自治法
- ② 選挙公報
- ③ 6月議会で一般質問のあった町内消防団の統合提案
- ④ 町における福祉関係部署の対応姿勢
- ⑤ 行政受益者の世代間格差

※月例会は基本毎月第4土曜日に開催しています。自由参加型ですのでふらりとお越しください

ワトスンへの記事募集中!

ワトスン編集係では、皆さんの投稿を募集中です。但し匿名は不可です。編集の都合上文字数は800字以下でおねがいします。

●古民家「やよみ亭」を活用してくたさる方を募集中！
お問い合わせは090-824-7152(9時～)まで



2024年(令和6年)
10月 第31号

発行・上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削515
NPO法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yuguru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
- ③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

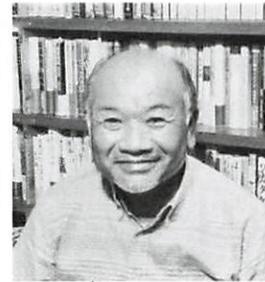
月例会 対談 合併20周年の節目 「町の未来をどう描いてゆくか」

参加者：平山和昭(弓削)、濱田高嘉(弓削)、濱村 寿(弓削)
大西幸江(岩城)、本田しま(岩城)
国延隆彦(佐島)、濱田和保(生名)
場所：上島町自治研究会事務所(下弓削515番地・於やよみ亭)

「上島町自治研究会」は、生活は政治と切り離せない関係にあることを共通認識している住民が集り、定期的に意見交換等を行っている任意団体です。いきおい政治に関わってみたい、関わってみたい人の参加があり、過去この会のメンバーから首長や議会議員に出た人もいて、議員4、首長1が、いずれも目的を達し、活動しました。

ことは平成の大合併で上島町となつてから5期20年の節目です。来る11月3日投票の町長、議会議員の選挙も予定されています。その選挙にまた自治研究会のメンバーから4名(首長1、議員3)が手を挙げていますので、町の課題、その解決にむけたいという動きかたをしたのか、などを月例会で話し合ってもらいました。

平山和昭 世話人・司会
ことし11月に予定されている町長と議員選挙それぞれ自治研メンバーが挑戦しようとしているので、では町の課題や問題点、それをどう解決しようか、思っているのか、などを順番に話してくれませんか。

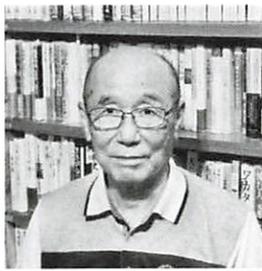


濱田和保 議員選予定

私は上島町のお金の使い方が適正かどうかということの問題としたい。例えば海苔工場新設補助や道の駅構想にみるように、その効果が町民の最大多数に波及するかどうか。受益者がごく一部のものに限られないか。

公金の使われ方が、後世にツケを回さないようにすることが一番大事だと思う。

司会 過去「ワトスン」の記事で和保さんが折につけ触れていることですね。濱田高嘉さんはどうですか。



濱田高嘉 議員選予定

道の駅構想は凍結になったけど、6月議会での町長答弁を聞くと、私は道の駅は地域活性化を目的としたものではなく、補助金獲得のためにその名が使われたとしか思えない。6月議会で町長はこういうふうに言っています。

道の駅という制度を使うと

国や県からの財源が多く獲得できる。上島町からの支出が少なくできるというから道の駅という名前を使っているだけでありまして、・・・(出典令和6年第2回定例会議事録26ページ)

自主財源の乏しい町なので補助金獲得は大事。抱き合わせ補助金というやり方もありかもしれない。でもそれは、事業自体が町民の望むものでなければおかしなことになる。

課題解決にたくはならない 世に先駆けて独自の公共交通網の構築

司会 大西さんは課題にどう取組みますか。



大西幸江 町長選予定

私も大きくはお金の使い方に問題を感じています。あと仕事のやりかた。公共交通、医療、福祉にお金を回すことが出来たはずだったのに、合併以来やつてこなかった。その20年を取り戻す必要があると考えます。特に公共交通は福祉の環という認識がもつと広まらないうと・・・今回の因島総合病院の統合は、上島町の交通や医療、福祉を考え直すチャンスだと考えています。

よく有利な起債なんて言われるんですけど、その有利という部分を、建物とかに対してではなく、人に対して向けるという風に、町民や、町民の動きやすさに投資したい。

働き方改革にしてもパワハラやセクハラに関する意識改革が他所に比べて、特に議会や役場が遅れていると感じるので、職員男女比とか女性職員の地位向上とか、そのあたりで

道の駅という名をつかえば補助金を取りやすいなら、じゃあそれを使つてどう町民の望むものにつなげてゆくか。例えば歴史資料館を作りたいたい。その一郭を道の駅にして資金を捻出するとか。でないとならぬように町民の理解は得られない。

司会 課題というか、自分の取り組むことについてはどうですか。

濱田(高) いまの議会はどうしても理事者に対して受け身になっている。あえて対立する必要はないが、議決されたことはすべて議会側に責任があると言われるわけだから、そうであるなら、理事者もつと前広に情報を議会に流し、議案審議する前に議会の意見を聞くという姿勢に転換してもらいたい。そういうふうにもっていきたい。

改善に力を注ぎ、男女ともに協力し合う働き方ができる雰囲気をつくりたい。

司会 ここに2022年に松山大学の学生が上島町の住みやすさに関する町民意識調査をした報告書があります。この中で学生のした分析は結構今を写し取っていると思いますので、興味あれば読んでみてください。

では濱村さんの意見はどうですか。

濱村 寿 わたしはね、今の議会での賛否の数が固定しているのが非常に気になるんですよ。寺下議員(共産)の任期途中でその死去で議員定数1減の13人で回ってきた。それで議長を除いて7対5でほとんど議案が通つてしまふ。賛成する側には是非々の議論もない。それぞれの議員の考え方がわかる討論も質疑もすくない。民主主義だから多数決で当たり前よ、と言われても、賛否の差がいつも2では納得できない。是非今度の改選で少数意見を尊重する議会になってほしいな。欲を言えば議案が議員全員の賛成で可決するぐらい議員間の話し合いを望みます。

司会 議員の質の問題ですか。

濱村 寿 ずばり言えばそうですね。

▼町の課題について語り合う自治研究会のメンバー



「変革は、弱いところ、小さいところ、遠いところから」

住みたくなる町で人口減を止めよう

司会 多数決だが少数意見を尊重するというのが民主主義と言われるけど、ではその尊重するというのはどういうことかという、国会でも自民が単独過半数握っているので問題ある議案でもしやにむに多数決で押し通してしまいうやりにかたに現れているように、議決という方法論の誤解がある。まああわかってやってんだらうが、本来なら問題ある議案は徹底的に議論を尽くし、その問題を修正して通過させる、というのが少数意見を尊重すること。

否決ではなく、「修正して可決」。それが当たり前にできてはじめて、議会と行政が車の両輪と言える。それがわかってない。いやわかっても手間を惜しんでやらない。そうところに国も地方議会も、未だに議会制民主主義の未熟域にあると言える。まあ指摘される問題点の何が問題なのかすら考えようとしてない。「何でも賛成団」が議席にいるってことこそ、最大の問題なのかもしれないけど。(笑)

司会 じゃ話を進めて国延さんはどうですか。

国延隆彦 僕がこのまえ傍聴に行っただけは、道の駅なんかより、こんだけ荒らしている畑をどうにかしたらどうかということ。草刈り隊を見てても、もうちよつとやり方を考えたらどうか。別にせんでもいいようなところを刈つたりしている。それに病院へいくときは車で行くんだが、生名渡船を他の会社の代船で運行していた。町は予備船を持っているが、そんなことなら予備船はいらんのではないか。予備船だつていざというとき使うのならメンテも必要で維持費もかかる。

濱村 草刈り業務をしてきた経験からいうと、それぞれの島の草刈りはそれぞれ島の業者に委ね、区長や地区長にそのエリアの草刈りやら年間計画や除草時期等をお知らせする。ことに観光資源として外部へ広報しているような場所はいざいざ整備してあげとく、

人口減の歯止めには 人と人の動きへの投資が欠かせない

司会 本田さんの問題意識は？



本田しま 議員選予定

私は移住者で岩城に住んでいるのですが、暮らしたい上島町を目指したいです。今後わたしたちは安心して暮らしているのか、高齢化社会、もうなつてますけど、に向かう備えは足りているか？、子どもたちはいざいざここで暮らしたいと望むか？、災害から命は守れるか？、と考えた時、これら課題を改善していくには、移動の自由(頼れる公共交通の構築という事です)、適切な医療、福

というのも、人が来る要素になるのではないかと思うなあ。役場の職員も仕事も忙しくて手が回らないのなら、区や地区に協力をあおぐという事になれば、町全体で美化に取り組んでいる姿にもなる。移住者の方々の就労の場を確保するためには、除草の講習を町費でまかない、一時的にも働く場を考えてあげることも大事かと思う。

司会 なるほど。実はこの本棚に「変革は弱いところ、小さいところ、遠いところから」という本があるんですが、一つの実践例です。本気でやる気になればできるということ。

大西さんの言われていることとほぼ同じなんです。改革は、小さな自治体だからこそ、きめ細やかな用意ができるんじゃないかと思うんです。ひとりひとりが大切にされる町、住み続けられる町、移住していききたいです。

司会 さつき船の話がでたけど、芸子汽船今治航路の問題はどう考えたらいいか。

濱田 高 芸子に関しては一四4便に減便して、決算をみてこのままでは改善は見込めない。お客も少なくなる一方乗組員確保できないので増便無理と言いつつ、会社は昭和62年創立、63年から今治土生航路運行開始。当時の船はちどり49トン2隻体制。今は上島町が貸しているつばめ50トン1隻体制。9月議会で今までもらってなかつた船の使用料を町がもたらうようにしたなんて言つてたけど、そんなこと意味ない。航路周辺エリアの人口は開始当時より激減している。船も50トンクラスではない。19トンクラスで十分。そういう面からも、もう制度疲労している改善は見込めないか。が実情ではないか。

国延 乗組員と話しても、もう会社はたたまむ気ではないかというんだよね。

濱村 上島町は弓削商船高専のある島。過去船乗りの町として栄えた。夢ももう一度、で

はないけど、全国に先駆け、島特有の公共交通に力を入れて欲しいですね。
芸子汽船、魚島航路、立石フェリーも含め、4島を結ぶ観光を兼ねた運行船もほしい。それを上島町公営事業課が窓口で運行運営すると考えたらどうだろう。役所は町の数少ない就職の場なんだから。

司会 このまえ防災講演会を聞きに行ったんだけど、自主防災組織の運営と地域連携活動という話だった。それと能登震災地へボランティア報告。そのとき消防防災課からのお知らせとして防災連絡協議会というのを組織するという。

濱田 和 そのまえに各自治会の体制を、たとえば区や地区割、その呼称、役職名の統一などを必要がある。それぞれ長い歴史があるので住民にはなかなか馴染みにくいものがあるかもしれないが、それをやっておかないと一斉放送とかでも誤解が生じかねない。本当は合併時に断行すればよかったのだから、それぞれの島の文化が違うので難しいとおもわれたのかもしれない。しかしそろそろそれをやらねばならない時期にきているのではないか。

司会 そうだね。行政が先頭に立ってやれば住民はついてくるはず。強い問題意識と志をもった人を行政の場に送り込もうという有権者の意思が改革への第一歩ではないか。議会も行政機関の一翼なんですかね。そういう意味ではメンバーや新人が全員当選し、町の存続にむけ努力してほしい。消滅可能性ナンバーワンの町なんだという危機感、ぜひ町民全体で持たねばと思えますね。語ればまだまだ問題課題はありますが、またの機会にという事で今日の座談会はこれにて。



2024 年(令和6年) 12 月 第 32 号
発行: 上島町自治研究会
〒794-2506 越智郡上島町下弓削 515
NPO 法人・頼れるふるさとネット気付
連絡先 Tel. 090-8247-5279 (平山和昭)
Eメール yugeru3@ray.ocn.ne.jp

自由参加型任意団体
上島町自治研究会・会則抜粋

- 目的
①本会は上島町における住民自治機運を盛り上げることを目的とする。
- 活動
②住民自治に関心のある者の自由参加により活発な議論などを通じ、少子高齢化の進行に歯止めをかける方法を探究し、安心して暮らせる町作りに寄与する町民の自主的活動を応援する。
③会は定期的に自治研究会を開催する。
※現在のところ毎月第4土曜日、14時から下弓削515番地「やよみ亭」にて開催。
- 入会/退会
④入退会には特に条件を定めない。

投票を済ませるとその場でもらえるカード。



令和6年辰年も残り少なくなりました。新年早々、能登北陸地震が発生し、大変な被害をもたらし、今なお厳しい生活環境に頭を痛めて居る方が大勢居ることでしょう。
衆議院選挙、わが町上島町の町長、議会議員、アメリカの大統領選挙と続き、勝敗に一喜一憂されたことだと思えます。特にわが町上島丸の船長と12名の乗組員選挙も結果の通りです。皆様の投じた清き一票の積み重ねですので、素直に受け止め、全国に誇れる海の町、島の町、笑顔のある住み良い町に、理事者、議員、オール町民で新たな4年間の船出となります。
選挙期間中ボスターを注視している。この候補者の何人かが入替わるかはわかりませんが、議員を育てるのは町民だと思おうので傍聴に行かないと駄目ですね。
そうですね、野球でも球場、大相撲でもテレビ観戦と土俵下で見るのでは迫力が違いますからね。議会も、ケーブルテレビと議場の傍聴とは全然違いますからね。
おばちゃん小さな声でポツリこぼしました。「関取は成績が悪ければ降格しますよね。議員も、何かやる気を起こさすことができないのかね。無口の議員も居ますでしょう。」
おばちゃん、面白いこと云いますね、でした。
投票率が前回よりマイナスだったとのことでした。出前投票場もですが、体調合め行きたくても自分独りでは行けない人たちの一票もあるわけです。それらをすべてすくい上げる方法を考えてあげてはいかがでしょうか。

全国に誇れる
海の町、島の町、
笑顔ある住みよい町へ

投票を済ませるとその場でもらえるカード。

(岩城・大西幸江)

(弓削・濱村寿)

(岩城・本田志摩)

(岩城・大西幸江)

日曜祝祭日は バス便がない？ 「鎖国ですか、この町は！」



▲写真は弓削土生地区のバス停風景

毎週土曜日の午後因島で開かれる閉基教室に時々参加しています。しかし今年四月から芸予汽船が減便になり、17時10分発の便がなくなつたのです。次は18時40分。フェリーで立石港に回つても土曜の午後は14時43分以降はバスがないので弓削まで帰れない。まさに青天の霹靂!!

病院以外に行くところはあります。我々が文化的な生活を営む権利は憲法で保障されている。行動の自由を保障するのは自治体の義務でもあります。行政は道の駅やマリーナ構想といった施策で観光に力を入れて見ようか。土日祝日に普通バスを運行せざるに観光云々はないでしょう。先日島外から訪れた友人は「鎖国ですか、この町は！」と驚いていました。来年の8月にはデマンド交通が発足することになってい

の老女に取材する。生活は困って、老女に借金をしたこともあった。胃がんで在宅死した。「玲衣子は男たちのタブーに触れたが故に、恫喝されて一生苦しめられたんです。(略)最後まで闘っていました」と老女は語った。

低用量ピル(経口避妊薬)は、日本では国連加盟国で最も遅い99年に解禁された。玲衣子の主張そのものは正しかった。寅子は危なっかしいところが無い調和の人。だから男たちは受け入れた。女性が大統領や首相に立候補することが当たり前になった今が、「女の夜明けの始まり」と婆さんは思う。(東京 早川和江)

寅子(ともこ)
と
玲子(れいこ)



佐田寅子は朝ドラ「寅に翼」の主人公、モデルは女性初の弁護士になった三淵嘉子である。鳩玲衣子は桐野夏生著「オパールの炎」の主人公、モデルは70年代注目を集めた「中ピ連」代表、榎美沙子である。

書評に「あの人は今? あるライターが鳩に関心を抱き、取材を始める・・・」とあったので早速買って読んだ。70年代はウーマンリブ運動が活発になった。婆さんは関心なかったが、「中ピ連」という言葉は記憶に残っていた。鳩玲衣子は名前を変えて転々としていた。晩年に住んでいたアパートを見つけたライターは、隣人だった年金暮らし

ますが、10月に行われた意見交換会では、「予算がないので土日祝日の運行は考えていない」と担当者が明言していた。早朝、夜間の運行も予定されないようです。やってみて都合があつたら改善していくということですが、土日祝日に運行しないデマンド交通など意味がない。予算がないなら外部に委託してまでデマンド交通を開始するより、今あるバスに予算を投入した方がいい。時刻表、停留場の見直し、土日祝日の運行といった改革を優先するべきです。自動運転の小型バスを

われら如何に生くべきや

若年層を呼び込むには意識変革こそがはじめ

わが町は、消滅可能性の高い自治体として県下では上位に位置している。そんな上位は願い下げだが、現実だ。だから「上島町を消滅させまい会」を立ち上げた。手始めの活動は、この度の選挙にちなみ、「時は今、町勢刷新。議会にもっと女性を。県初の女性町長を。」をスローガンにさだめ、町民に、町の行く末に思いを馳せてもらう啓発活動をした。



消滅自治体にならぬためには、町の勢い、すなわち町勢は下降から上向きに変えてゆく必要がある。そのためには、変化を恐れてはなるまい。そしてその変化とは、行政や議会がつかりだすものではなく、町民自らが変わること。しかし、町が変わることにワクワク感や期待感を持っていないようでは変わらないはずもない。

議会も議員であることが目的化したおっさん勢力の蔓延から、しっかりと女性も参画できるように。だから「議会にもっと女性を」だし、当然トップも、従来型の、県や国とのパイプなどという古びた手法論ではなく、どうなりたい、ではどうする、を具体案にするべく、関係者が自分たちの頭で論議し、政策への支援を県や国にもとめてゆく。そうすれば応援は得られる。そもそもが政府と地方とは、さういう仕組で動いているのだ。さうして突撃町長と呼ばれた旧瀬戸町町長・和氣成祥氏(わけしげよし・故人)のこれが

導入することも考えてほしい。運転者不足の問題が解決するし狭い道にも入れる。すでに全国各地で実証運転が始まっており、愛媛県では伊予市でも行われていきます。またバスを補完する手段としてはデマンド交通より、ライドシェアのほうが町の実態に適していると思われまふ。近所の人に「ついでに」乗せてもらう感覚での、この町独自のライドシェアが考えられないものかと思つていきます。(弓削・古賀佳子)

手法だった。だから、その仕組みを理解して「県初の女性町長を」、だった。さらに一般論で言えば、ひとつの体制が長く続けば当然のように利権が生まれ、町民意識も硬直化する。であるなら、ここはいちばん、女性目線で政策立案できるキャラクターが舵取りになるほうが、よほどワクワク感があるというもの。

わが町も高齢者の多い町。高齢者がいままでもかわらないのを望むなら、余生をただ過ごしているにすぎない。変化をもとめ、それに加担する動きをすれば、その実現の楽しみなど、心身ともにはつらつとした気持ちになれるはず。それこそが「長寿百歳のまちづくり」という、合併当初の町の目標につながる動きであり、意義ある人生なのだ。と考える。限界集落の定義によれば、わが町はすでに限界集落に近づいている。人口動態をみても、あと10年でもせよ町制要件人口5000人を切るのではないかと危惧される。さてわれわれは如何に生くべきか。(弓削・平山和昭)

※限界集落とは、地域人口の50%以上が65歳以上の集落。若者が流出し、冠婚葬祭などの社会的共同生活を維持することが限界に近づきつつある集落のこと。55歳以上が過半の場合は「準限界集落」と言われる。大野晃が1988年に提唱した概念。

月例会について

自治研究会の月例会は、基本毎月第4土曜日の14時から下弓削515番地の会事務所「やよみ亭」で開催しています。自由参加型ですので、ふらりとお越しください。

●古民家「やよみ亭」を活用
お問い合せは090-8224
75279(平山)まで